古言清濁考　一

清水濱

清水濱臣藏書

古言清濁考序

人のもすくなき詞のうへのあやまりに
こゑはいよゝみだれにいやしくきこゆ
おきおかなさひつかあそはあまへ
またなりきて出るゝ多くて濁るゝと
いとくおほかりきときつも侍るを
しるふゝきもと多く御世はらしかる

さればふみやひろげし秋のよそ
らの月影のさやけくにまさりけれ
ぬるゝ夜より天川渡き河瀬も夜
ゆきハうれてとくらふうきおもらふ
志ましハふかゝる事てし行とハこゝ乃
ゐ葉もえ綴かへし梶のかしつて
まゐ法くらつくしぬよわふおもかえ

てハ野への夜半かわふきふくる聲
もそのま深かくてこの色むふこ
ゑも高く波うをつくまかなゐるなり乃
西しれ以下人書もてかむりをハ古
今といふむし浪河のふるきをゐりつき
るむし猶も身のうちをるそゝ中ふいり
し人を偶ともなうハいふかハもて手をもれき

しハらく稀にたへ絶すていへとも
ゆるいまへことはいとよめくそふこ
つゝみ置をくれかゝ守る紙ある物
家いまの世好女のしを人の志ゝなる
むかしとよ多きる文ていさへゆゑ
のみやひ云けりいま古ともし古を
する行る跡をしるやうに秘きしるへ

さるこゝろねをしもかつてまゐまくらし
かゝるをて迷ひてしかつてしおもひろかに
思ひさし行るハふこゝろゆしともみや
むかしきし飛ちせて後えしてかゝる
をも知るもんをもおもひ行ゝく
うりふこゝるゐもひよきゝて古り
遠ひて みつきめるさまなめ

はじめあがたゐのうし宣長なやく
しるしいふ人ふるきふみをつくりひろく
らはし穂つくしにむかしきもの
んをみてあんて世をさかにこれ乃正
しれるも又今のこゝろにかなへる多ゝる
るみしはじめかえてゆゑに此ある
まなくはへにあらはしめて世のさる

よみを直してもうと玉しるやきたこ
てるにかきてしおもひ子思ひをこ
もとも妹がうへ乃いゐなくていま
まそにいわれをさもつえしもなき
さうえ君宝はんにはしるまよ
ろ係之統の金はしを孫をと
かもにせて書つ陰海乃いなき

小教藝しける梅ちらぬこゑの細に心ふ
ちりに布きこぬ墨しわ玉つさをみ
つゝしも浮つ子まぬ毎過きさつ
あらしる白の此年て後をつそぬうる
梅るこて志わふらく後きしぬふるえ
の黄の孫もしるなてこのてまをうく
んさしめし和哥にりぬ木ぬつき

てをものし様を思ひおこしてえ
むかひゐしにめくるまてこのい
にしへ乃詞のこゝろはえをもしふかゝる
をしるかにつゝめる甘菜はあまみ
くはなしふあきらかなる出かく
ゆふそその須ゝめのことを

宣長

古言清濁考序

古言清濁考序

古事記日本紀萬葉集の。假字(カナ)書(カキ)をかむかふるに。しるくふる言のその清濁。今の世のと異(コト)なるぞいとさはにありける。そはあらたまの代々をふるまに〳〵。かりこものみだれにみだれて。つね人ふるごとはさらにもいはず。かしこきや。皇神(スメカミ)たちの御名をしも。よこなまりてとなふるは。いともかなしき事なりけめ。それもしすべて大清濁は。いともくすしき。言妙(コトタヘ)のさきはふ清濁にして。あゞのれ遠代に。此清濁も。いと正(タヾ)しうありけるを。志のこぶりになりぬるを。あらためなほさでやはあるべき。ふる言まな

びせむともがらハ。んすべきなざるなめうし。おのれもしところ。
いうで此事をきゝ見てしかもと。竊よひするおもひされ
ど。あらそ見のあさらするんなハ。あもひうるすゞくて。
ゑじにいきどろしくてのこあり〃るを。一年(ヒトヽセ)我(ワガ)親屋、
大人おみなやうに。伊勢、國に。なおるしひにまゐでしに。大人
ちくらみえくされを。ゑでさまくおもかりしつきゑますひて。か
つぐしものしゑますふ親にしありけ諸ぞ。この事。いとねも
ら親にするも志見し給へかり給。かれその後(ノチ)ハ。いよしんを
ふめおこし。とひあさらつ見きて。あさら見て。やつきのつぎ
き。つぎらつぎらに。さとしゑますへる大人のきしんを。宿(ヤド)の

ともしびとかゝげて。くらきんのくまぐまをてらし。やへ

ともしびをかゝげて。くらきよのくまぐまをてらし。やへむぐらかきかきつらぬる。これの書(フミ)になるをあは。

寛政の六年といふとしの秋のなかば

石塚龍麿

○古書にみえたる仮字の清濁。今の代に言（イフ）と異（コト）なるいとおほし。こハ古書のかなの用ひさまの。みだりなる仮字にハあらず。いにしへと今と清濁のかはれるなり。かれ今ハいにしへのによりて。今のよこなまりをたゞさむとす。

○凡て此書に定むる清濁ハ。古事記。日本紀の哥。又訓注。さてハ万葉集の内の。仮字書（カナカキ）なるなどなり。かくて此三ツの書のうちに。古事記ハことさらあやまりなきを。日本紀万葉にハ。たがへるふしも。をり〳〵なきにハあらず。そハかしこと〳〵を考へあはせて。正（タヾ）しきをとり。又よりどころのおなじく。よしとおぼしきをうるによりて定（サダ）めつ。又

まぬくにハ。言（コト）のさまによりて。よりどころハすくなきか

まれ〳〵にハ。言(コト)のさまによりて。よりどころハすくなきさかしまにもよれるあり。又よりどころハなき事ども。かくへに例によりて。かくやあらむと。おのが心もていへるもあり。猶それ処々を見て知るべし。

○近き世となりて。古学おこりてハ。古書にかなの清濁の。わかれる事をバ。大かた人も知れゝども。そも猶濁音にハ。清音の字を通(カヨ)ハし用ひたる多。おなじと心得て。今の世に濁るをぞ。皆濁りてよむハ委(クハ)しからず。こハいにしへと今と。清濁にかはれる事を。いまだわきまへずて。今の言(コト)になづさへるひがことなり。

○山の川をヤ゜マ゜ガ゜ハ゜旅なる人をタ゜ビ゜ビ゜ト゜といふごとし。すべて二ツをつらねて。一ツにいふ言(コト)ハ。下の言(コト)のかしらを。必(ス)濁ることなり。例を定めてよむハひが事なり。此例古書を考ふるに。今の世にハ濁るをも。古言にハ清めるぞ多かれど。必(ス)然ることにハ定めがたし。古書によりてよむべし。凡て今此古学の輩(トモガラ)。必(ス)清(△)ぞと云をも。濁るをふるしとぞ。みぶみに濁る事あるをハ。中ごろにて古へにあらず。

○出雲風土記。続日本紀の宣命。仏足石哥。古語拾遺。姓氏録。新選字鏡。延喜式祝詞。神名帳。和名抄などかなるハ。清濁のかゝざれどもより処とすべし。これら此書にハ。濁音の処

に。清音のかなを用ひたるハさらにもいはず。清音の処に。

に。漢書のかなをも用ひたるハさらにもいはず。漢書の処に。
漢書のもじをさへに用ひためれ。されど古き記日本紀万葉
のかなや合(カナヒ)て。漢字をもちてかけりとみゆる処も。をり
をりハなきにしもあらず。
○古言と今此詞(コト)と。漢語のかはりぬをも挙(アゲ)ためり。そハかは
れるがあれきにならひて。かはりぬも紛ひあへるをお
もへぞなめり。
○神号を挙(アグ)るに。天之某。国之某。とまをすハ。或ハそれ天国
にまりて。阿ノ紀玖ノ紀にいぶし。或ハ天之国之にハかはりかはり
ぞ。それ下の言によるる。とハそれ名のさまるに随ひて。ゐぬる

にたよりよろしむべきなり。
○此書は事毎(コトゴト)に。古書の語を挙(アグ)るに。古上。古中某。古下某と記(シル)
せるは。古事記上巻。中巻某條。下巻某條なり。紀某と記せる
は。書紀の巻々此巻なり。万と記せるは万葉集巻にて。一二
三などは巻のついでなり。幾丁(イクヒラ)と記すは。考へ見むに。よくたよ
りよろしむべきなり。それ巻との。ひらのついでを挙(アゲ)たるなり。
○條毎(ゴト)に。その声の清濁を示(シメ)すに。清には○と志るし。濁に
は●と志るす。あかとがちの如き。上二つのか○。下のか●
ち○と志るすがごとし。

○古事記假字清濁

カ 清音 加迦訶可甲 濁音 賀何我

キ 清音 伎吉棄紀貴幾 清濁通用 岐 濁音 藝疑

岐を清濁通用とあぐる事。師の古事記傳に委し。又師ハ棄をば濁音と定められたれど。古紀万葉ともに清音に用ひられたれば今ハ清としつ。

ク 清音 久玖 濁音 具

ケ 清音 氣祁 濁音 宜下牙

コ 清音 許去古胡故高 濁音 其碁

サ 清音 佐左沙 濁音 邪奢

シ 清音 志斯師色紫芝 濁音 士自

ス 清音 須洲州周 濁音 受

セ	清音 勢世	濁音 是
ソ	清音 曾蘇宗	濁音 叙
タ	清音 多他當	濁音 陀太
チ	清音 知智	濁音 遅治地
ツ	清音 都	濁音 豆
テ	清音 弖帝	濁音 傳殿
ト	清音 登等斗刀土	濁音 杼度騰縢
ハ	清音 波	濁音 婆
ヒ	清音 比肥斐卑	濁音 備毘
フ	清音 布賦	濁音 夫服
ヘ	清音 弊閉平	濁音 辨倍

へ 清音 弊閉平 濁音 辨倍

ホ 清音 富本菩番蕃品 濁音 煩

○日本紀假字清濁

カ 清音 加伽迦箇个軻訶柯舸哿可河歌 濁音 我餓俄䳘峨鵝

キ 清音 枳企機幾氣耆紀祇吉己棄基伎既岐祁奇支 濁音 疑擬

ギ 儀藝𧍧蟻

ク 清音 句倶區久玖絇矩屨窶苦衢 濁音 遇愚具娯虞

ケ 清音 計鷄開階祁慨槩戒氣該𥋆凱家啓居 濁音 礙㝵皚覺

コ 清音 顧據固居虚故姑古去許擧莒渠孤 濁音 語馭誤御吾五

ゴ 呉悟

サ
清音 佐瑳差作沙娑舎
濁音 奘奘社藏

シ
清音 嗣志辞之時詩試芝始資斯絁施伺思旨指尸矢爾璽師子茲
濁音 珥餌士貳自兒茸

ス
清音 素須殊輸秀周主酒蒭
濁音 受儒孺

セ
清音 勢西齊劑制世細栖
濁音 筮噬

ソ
清音 曽贈層蘇泝素則諸所
濁音 叙序鋤茹

タ
清音 多拖哆黨
濁音 陀娜太駄儺囊

チ
清音 知智笞致撤池
濁音 泥旎尼遲膩

ツ
清音 都菟兎屠
濁音 豆頭逗圖途砮

テ
清音 弖底帝諦題堤
濁音 泥涅提耐涅弟

ト
清音 登鄧妬等啓斗刀杜屠覩都徒圖塗
濁音 度耐迺怒騰渡

[ト] 清音 登鄧妬等菪斗刀杜屠覩都徒圖塗 濁音 度耐迺怒騰渡

[ハ] 清音 波播幡破絆簸皤巴 濁音 婆麻縻摩磨魔

[ヒ] 清音 比避譬譬辟被彼畀秘悲 濁音 弭寐備媚弥毗眉縻鼻

[フ] 清音 布輔赴府敷賦甫浮俯符不 濁音 夫文歩父歩部鶩

[ヘ] 清音 覇陛珮弊弊蔽閇背俳杯沛鞞 濁音 倍陪謎每韡

[ホ] 清音 保朋倍費褒褒報袍譜 濁音 煩

○萬葉集假字清濁

[カ] 清音 加迦架嘉可哥箇 濁音 何我賀河

河ハ集中ニ濁音ニ化式処、清音ニ十処用ヒタリ。かれ今ハ濁ル

[キ] 清音 伎吉企枳忌支紀貴奇騎棄綺寄 濁音 疑義祇宜藝

[ク] 清音 久玖君苦口九鳩 濁音 具隅求遇

ケ 清音 家計氣既祁奚雞結谿價夂　濁音 牙礙宜雅夏

コ 清音 許巳胡枯姑古故巨孤虚庫居去興　濁音 期碁呉後吾其

サ 清音 佐左沙作散紗草紫　濁音 耶射謝社

シ 清音 志思之斯新進信指子紫司此旨水次式四詞詩偲師事死　濁音 自士時慈寺緇盡

ス 清音 須周殊酒洲清數　濁音 受

セ 清音 世勢西施齊　濁音 是

ソ 清音 曽蘇僧則素增憎所宗祖　濁音 序叙俗

タ 清音 多他冊　濁音 太陀

チ 清音 知智陳耻　濁音 遲治地

ツ 清音 都追通　濁音 豆頭

ツ 清音 都追通 濁音 豆頭

テ 清音 弖天帝底提堤 濁音 伝尼泥涅代

提゜ハ集中ニ清音ニ凡三十処、濁音ニ凡十処用ひたり。その中七処ハ、袖のテ゜迄のテ゜にて、定かに濁音とも定めかたし。袖迄のテ゜ニハ多く清音のかなを用ひたる例なれども、かれおほかるによりて清音としつ。書紀にハ濁音に用ふ。提゜は四ノ巻に一処用ひたり。書紀にも清音に用ひられど、今ハ清としつ。

ト 清音 等登斗刀澄得土 濁音 渡度杼騰藤特

ハ 清音 波播幡伴半盤薄芳方泊蘒破八房 濁音 馬伐婆

ヒ 清音 比悲斐非飛卑必賓嬪臂 濁音 妣婢毗尾備鼻

フ 清音 布副不敷粉負否 濁音 夫扶

ヘ 清音 敝弊幣陛覇返閉遍 濁音 倍陪辨別便

ホ 清音 保寶富朋抱倍 濁音 煩

古言清濁考一之巻

○阿部　アカ

あかるひめ 神号 かひ○ 阿加流比賣神 古中 應神

あかひめ 人名 ひ○ 赤比賣 古下 継体

あかし 播磨ノ地名 かし○ 安可思 万十五ノ八丁

あか 豊國ノ地名 か○ 阿柯 紀安閑

あかしがしは 色着よる柏之 下ノか● 安可良我之波 万廿ノ十二丁

あかしがち 酸醤 上ニツノか○ 下ノか● ち○ 赤加賀智 古上 阿箇箇鵝知 紀神代

あかだま 赤玉 だ● 阿加陀麻 古上 阿軻娜磨 紀神代

あかこま 赤馬 こ○●難定メ 阿箇悟馬 紀天智 阿加胡麻 万廿ノ廿九丁・十五ノ九丁・十四ノ廿丁・安可故麻 十四ノ廿一丁

あかはだがねる 剱名 上ノかトはト○

下ノかとゑ ● 阿箇潘娜我等母 紀仁、垂

あかみどり

年号ニ 朱鳥

〔え〕○ 阿訶美苔利 紀天武

あかねさす

枕詞

さ○ 安可祢

佐須 万十五ノ廿一丁

あかつく

垢着

かつ○ 阿加都枳 万六ノ廿一丁 阿

可都久 万十五ノ廿丁

あかとき

曉

〔え〕○ 安香等吉 万十五ノ十三丁 此言

万葉よ。後あかときとかれども。異ることぬバ、ちぶさつ。後世はアカツキといへども。古書にはアカトキとのみあり。

あかしてを

ほれ

道明て 通之

かぜ○ 阿加斯氐杼冨礼 古下 允恭

杼゜を用ひさるハいと

と定之。古事記にもかくのめさ定まれるにハあめ。同所にヤてダヲ豆゜クリ。雄

略ノ段にヌ入キヅハヤ具ヒ。仁徳ノ段に入ツ毘゜ニシラ△トなどあめ。言のそじあ

てにをハの次をほるなりハ。あさくるすこ。他しのよめづく言にハ

まれにほるあめ。こハ一ツの格と見ゆ。於ノ紐大斗能辨ノ神ノ条にも委しくいふ。

あがのこ

人名

か● 阿餓能胡 紀仁徳

あがく

足摩を 上ノ

する貞

か● 下ノか○ あしも 阿賀加尓 古下 仁徳

あがき

馬ノ足 掻之 か

● 安我佐 万十四ノ廿一丁

あがる 高へ揚ルこ か● 安我里 万十七ノ九丁

あがり 殯 か● 阿餓利 紀仲哀

あがふ 贖 か● 安賀布 万十七ノ五十一丁 廿ノ巻ニ加を用ひしハ不正.

あがつ 班 か● かしにを阿宜岳 古下仁徳 秘阿餓都 紀神代 今本に秘波餓都とある. 波ハ阿の誤りなるべし.

アキ

あきびめ 神号 ひ● 秋毗賣ノ神 古上

あきづひめ 神号 つ● ひ○ 秋津比賣ノ神 古上 津ハかかるにハあらねど. 伊豆能賣ノ神と同神なりといふ. 師の考へによりて清と定めつ. 凡て国号も虫の名も. アキツのツ゜ハ皆清るなり.

あきづしひめ 神号 つ● ひ○ 秋津師比賣ノ命 古上

あきづしま 此説ハ師の国号考ニ委シ つ● し○ 阿岐豆志麻 古下雄畧. 紀仁徳. 古紀ニ蘂を用ひたるハ不正.

あきづ 蜻蛉

つ● 阿岐豆 古下雄畧 万葉十ノ五十八丁に、秋都葉尓にほへる衣、とあるハ師の説ろ、尓と云ふ辞を以テみれバ、秋の紅葉をいへるにてもあしむうとらへり。

あき 人名、大和、地名。 さ○ 安貴王 万三ノ廿五丁

阿騎みせ 一ノ九一丁

あきさ 鳥名、 さ○ 秋沙 万七ノ九丁

あきづ

く 秋着 つ● 秋豆氣婆 万十八ノ六七丁 安吉豆吉ぬし 十五ノ十八丁 都を用ひたるハ不正。

あきかたまけ 秋方向 かけ○ 秋加多麻氣 万十五ノ十丁 十一ノ四丁に、夕方枉(ユフカタマケ)とあるハ不正、枉ハマゲと訓りてこそよめ。

あきびと 商を頻ニするこ と● 商自許里(アキ) 万七ノ廿五丁

あきだらぬ 不飽足 さ○ ぬ ● 安伎太良奴 万五ノ十七丁 十ノ十一丁

あき 國名 さ● 阿岐 古中神武 安藝 紀仁徳、万十五ノ十丁。

あきな 姓 さ● 阿藝那ノ臣 古中孝元 阿祇奈、君 姓氏録 万葉十四ノ足えあしがりの安伎奈の山とあるをもはるべきこ。

あぎ 我君 さ● 阿藝 古中仲哀、紀神功。

あぎとひ 事向 師曰アギは我君、トヒは問のトヒなるべし。 さ● ゆ○

君 姓氏録 万葉十四ノ巻にあしがりの安伎奈の山にあるをもはるべきこの。

あぎ

我君 ぎ● 阿

藝 古中仲哀紀。神功。

あぎとひ

師曰アギは我君。トヒは事向のトヒなるべし。

と●ひ○ 阿藝登比 古中垂仁

アク

あくをひ姥

人名 くをひ皆○ 阿久斗比賣 古中安寧 師曰。阿久刀神ノ社。津ノ國嶋上ノ郡にあり。此社芥川村にありといへり。されど。芥ハもとアクトなるべし。

あくゐ

芥 くゐ○ 飽田 アクタ 万七ノ六七丁 誤るハ誤也。

あくら

紀伊ノ地名 く○ 飽等比濱 アクラ 万十一ノ四十二丁

あぐら

座 ぐ● 阿具良 古下雄畧 阿娯羅 紀円

あぐぬま

新羅ノ國ノ沼ノ名 ぐ● 阿具奴摩 古中應神

アコ

あこし

人名 こし○ 阿古志 紀持統

あごね

地名 こ● 阿

後居之原 万十三ノ五丁

あご 志摩ノ郡名 こ● 英虞 阿呉 和名抄 他

し 古紀万葉ニハ胡を用ひたり。又万葉十三ノ八丁。七ノ十四丁ニ。阿胡のうらを一ノ十二丁ニ。阿胡根のうら。とあるハ他処とことゆ。うめ〜の胡ハ清△でよう定めし。

あご 我子 こ● 阿誤 紀神武

アサ

あさぢやま 對馬ノ地名 さ○ち● 安佐治山 万十五ノ九六丁

あさかる 住ノ江ニある地名 さ○ 淺香乃浦 万二ノ九六丁

あざか 伊勢ノ地名 さ●か○ 阿邪訶 古上 阿射加ノ神ノ社 神名帳

あさづま 大和ノ地名 つ● 阿佐豆磨 紀仁徳

あさり 魚を取之 さ○ 安佐里 万五ノ九丁。十五ノ十六丁。十八ノ六丁。

あさぢぬはら 浅篠原 ぢ● は○ 阿佐士怒波良 古中 景行

あさぢはら 浅茅原 ち● は○ 阿佐遲波良 古下 顕宗 阿佐膩簸曬 紀 円

あさがほ 花名 か● 安佐我保 万十四ノ九六

古下顕宗阿佐膩簸囉紀円
【あさがほ】花名　か●安佐我保万十四ノ九
六丁
【あさごろも】朝霧隠　さこ●安左宜理其問理万十
五ノ九丁
【あさびらき】朝ヨ船を漕出ル之　ひ●安佐妣良伎万十五ノ六丁、十
八ノ十二丁。安佐婢良伎九ノ廿八丁　比。を用ひたるハ不正。
【あさがり】朝狩　か●
安佐我里万十四ノ廿四丁　某がりと云フ誤る俗之。
【あさぶち】朝ヨ旅立多ど為之。　ゑ
●安佐太知万九ノ五十三丁　十七ノ四十三丁
【あさぷらぞ】朝不去　さ○
安佐左良受万十七ノ四十二丁
【あさひさを】朝日差　ひさ○阿佐
比左之万十七ノ四十丁
【あさけ】朝明之。又伊勢ノ郡名。　け○安佐氣万十四ノ廿四丁
朝明アサケ和名抄
【あさと】朝戸　と○阿佐妬紀崇神
【あさしも】朝霜
し○阿佐志毛紀景行
【あさつゆ】朝露　つ○安佐都由

万十五ノ廿四丁

あさねがみ 朝起シ時の髪ニ か● 安佐祢我美 万十八ノ廿四丁

あさなさな 朝々 さ○ 阿佐奈佐奈 万九ノ四十二丁

あさな 朝菜 さ○ 安佐奈 万十四ノ十七丁

あさしほ 朝潮 し○ 安佐之保 万廿ノ廿三丁

あさずをせさゝ 酒ヲ進ル詞 を● さ皆○ 阿佐受袁勢佐佐 古中仲哀 阿佐濡塢齊佐佐 紀神功

あさてこぶすま 麻布衾 て○ ふ● 安佐提古夫須麻 万十四ノ十九丁 アサデのデは。タヘの約りさるゝれを清ムべし。出紀神代ヲ。和幣を尼枳底とよめるにてしる

あざはり 糾 さ● は○ 阿藏播梨 紀継体

あざみつひめ 人名 さ● つひ○ 阿邪美都比賣ノ命 古中垂仁

あざみのいりびめ 人名 さひ● 阿邪美能伊理毗賣ノ命 古中垂仁

あざむく 欺 さ● 阿射無加受

万五ノ四十丁

アシ

あしかびひこぢ 神号 か○ ひトちトヲ● 阿斯訶備比古遅ノ神 古上

あしなゐか 神号 ゐ● か○ 葦那陀迦ノ神 古上

あしなづち 神号 つ● 脚摩乳(アシナヅチ) 紀神代

あしひゐ 人名 しひゐ皆 ○阿斯比多 紀欽明

あしがら 相模ノ郡名 か● 安之我良 万十四ノ四十丁。四十四丁。 加を用ひたるハ不正。

あしほやま 常陸ノ地名 しほ○ 安之保山 万十四ノ四丁

あしきぬ 筑前ノ地名 き○ 蘆城野(アシキヌ) 万八ノ四十四丁 卌八 城° 訓まれども。古書ニ皆清ム。俗ニ用ひられたりそれを此ままとしてそえべし。

あし 悪 し○ 安之伎 万十五ノ卌二丁

あし 足 し○ 阿斯 古中景行

あしずり 悲ミ泣ク貌 之。足摩。 ずり●

足受利 万九ノ十八丁 五ノ四十丁にハ。足須利と清音のかなを用ひられども。万葉にハ受を須に誤れりとあげしたる処。あまた見ゆれど。今ハ濁音の受に従ひつゝ。須を受に誤れりと見ゆる処を。五ノ廿七丁にうちひさ受とある。受ハ須なる事いちじるし。こハ濁清の字体よく似たるゆゑに。字出よりあやまれるなり

あしび 木名 ひ● 安之婢 万七ノ十丁 廿ノ六十二丁

あしびき 山の枕詞 ひ○ 阿志比紀 古下允恭 阿資臂紀 紀同 安之比紀 万十七ノ廿一丁。十九ノ十二丁。十四ノ廿丁。廿ノ五十五丁。十八ノ廿三丁。 安思必寄 十五ノ廿三丁

これら万葉にハ揃いとおほくあれ。一処も比に濁音のかなを用ひたるハなし。必清音なり。濁りてよみくるハ誤也。

あしがも 鳥名 し○ か● 阿之賀毛 万十七ノ廿七丁 安之我母 同四十六丁

あしかき 葦垣 か○ 阿之可伎 万十七ノ廿丁。廿一丁。九ノ廿四丁。

あしはら 葦原 は○ 阿斯波良 古中神武

あしがに 葦邊に居ル蟹之 か● 葦河尓 万十六ノ廿丁

あしべ 葦邊 へ● 安之辨 万十五ノ十二丁 こハ敝の清音のかなを

も。あまる処に用ひられども。稀に写誤れ かなもあれど。今ハ姑く写誤としつ。

あしび 葦火 ひ○●難

定 安之布 万九ノ四 十丁 一処のみ。

あしゐ 且 ゐ○ 安之多 万 十

五ノ廿六丁。十 十九ノ廿六丁に。大をも 八ノ十三丁。 用ひたるハ不正。

あじくま 地名 しく

○阿自久麻夜末 万十四ノ 廿五丁

あじろ 網代 し● 阿自呂 万七ノ 十一丁

アス

あすは 神号。越前ノ郡名。 は○ 阿須波 神古上。万廿ノ 廿三丁。

あすかは 大和に有ル川ノ名 上ノか○ 下ノか● 阿須箇我 播紀明。斉 阿須可河泊

万十四ノ 廿一丁 栗川とよが 多く写ル誤と

あす 明日 す○ 阿須古 顕宗紀下。同。

あ

あぜ 田中ノ道。磨曰ク崩 岸なて危処二。 ぜ● 安受 万十四ノ 廿一丁

アセ

アツ

あせか 東国ノ地名 せか○ 安齊可我多 万十四ノ十六丁

あせ 我兄 せ○ 阿勢 古中仲哀紀神功

あせ 汗 せ○ 阿世 内宮儀式帳 こハ外ノ又かるちぎりんかも姑くよりぬ。

あぜ 何ト云ニ同じ 但馬東語 せ● 安是 万十四ノ七丁

あそ 朝臣 そ○ 阿曽 古下仁徳。万十六ノ廿一丁。

あそ 肥後。又下野ノ郡名。 そ○ 阿蘇 古中神武 安素 万十四ノ十四丁

あそび 遊 び● 阿蘇婆勢 古中仲哀 阿蘇麻紀武烈 阿素毗 万五ノ十八丁 阿蘇夫 同丁 万葉に清音のかなに蘇を用ひたる処もあるハ画しゑらず。

あそし 浅々し さまゝ そ皆○ 安蘇蘇 万四ノ廿三丁

アタ

あたら 惜 ら○ 阿多良すぐしぬ 古下仁徳 阿掩羅あらくま 紀雄略 安多良さかり 万廿ノ十五丁

あたら 新 ら○ 安多良安多良 万廿ノ十一丁

あたね 木名 ね○ 阿多尼 古上

あたり 當 り

良 万六ノ十一丁

あたね 木名 た○ 阿多尼 古上

あたり 當 た○ いへ此阿多理 古下履中

古上 阿黨播怒 紀神代

あたふ 與 た○ 阿多波志都

あたかも よく似たる事をいふ詞。 た○ 安多可毛 万十九ノ六四丁

あたゆまひ 師曰。疵病 た○ 阿多由麻比 万六ノ廿丁

あた 仇 た○ 安多 万六ノ十八丁

あた 薩摩ノ地名 た○ 阿多 古中 神武紀天神武。和名抄。 此地名によれる神号なども皆清べし。

あだ 大和ノ地名 だ● 阿陁 古中神武 阿陀陀ロ音可二濁テ讀一 和名抄 阿陀比賣ノ神ノ社 神名帳

あだゝら 陸奥ノ郡名 上ノだ● 下ノた○ 安太多良 万十四ノ十五丁

あだせ 踏ミ攉ク やうのこと だ● ふゝ安太之 万十九ノ六三丁 今本にハ多を用ひたり。今ハ官本によりぬ。

あだし 他 だ○●難レ知 今の世にハあだしあだし心などにごりてとなへつれど。かゝるハ見あたらしず。

あち 姓 ち○ 阿知、直 古下履中 安致、臣 紀雄畧

あぢすきたかひこね 神号 ち● ひ○ 阿治志貴多迦比古泥能迦微 古上 阿泥素企多伽避顧祢 紀神代

あぢ 味 ち● 味耜高彦根(アヂスキタカヒコネノ)神(カミ) 紀神代 味村(アヂムラ) 万四ノ十二丁 上の条とそへしそるべし。

あぢまぬ 地名 ち● 安治麻野 万十五ノ廿六丁

あぢまさ 地名 ち● さ○ 阿遅摩佐能志麻 古下仁徳

あぢかま 地名 ち● か○ 阿遅可麻 万十四ノ廿二丁

あぢふ 津ノ国ノ地名 ち● ふ○ 阿膩賦 紀孝徳 鯵生野(アヂフヌ) 続日廿八

あぢ 鯵 ち● 俗言すなる。上ノ条みてしるべし。

あぢ 鳥名 ち● 阿遅 万十四ノ十二丁 安治むら 廿ノ廿五丁 知を用ひたるハ不正。

あぢさなく 缶益

ち● 小豆(アヂキ) あつく 万十一ノ廿一丁 応神紀に小豆(アヅキ)を阿豆枳辞摩とあるによりて俗言とせしなり。

ち● 小豆(アヂキ)なく 万十一ノ九一丁 應神紀に。小豆(アヅキ)島を。阿豆枳辞摩とあるによりて。誤写としつ。

あぢさはふ 目ノ枕詞 ち● さふ○ 味澤相(アヂサハフ) 万六ノ十八丁

あぢさゐ 紫陽花 ち● さ○ 安治佐爲 万九ノ四十六丁

アツ

あつし 厚 つ○ 安都美 万十八ノ九丁

あつみ 人名。又美濃ノ郡名。 つ○ 厚見王(アツミノ) 万八ノ十七丁

あづみ 姓。又信濃ノ郡名。 つ● 阿曇連(アヅミノムラジ) 古上。姓氏録。曇ハ誤写の字なれど。以ス誤るべし。と師説之。

あづ 人名 つ● 阿豆ノ王 古下 継体 書紀には。厚王とあり。不正なるべきか。

あづまぢ 東路 つち● 安豆麻治 万十四ノ十七丁

あづき 小豆。又嶋ノ名。 つ● き○ 小豆嶋(アヅキシマ) 古上 阿豆枳辞摩 應神紀

あづなひ 罪ノ名 つ● ひ○ 阿豆那比之罪(ツミ) 紀神功

あづさ 木名 梓 つ● 阿豆佐由美 古中應神紀仁徳紀 万十四ノ六四丁 万紫 又都

を用ひらるゝハ正しからず。

アテ

アト

あで 紀伊ノ郡名 て● 阿提ノ郡 紀持統 アデ 足代 万七ノ十九丁

あと 姓。又近江ノ地名。

ど○ 阿斗 紀天武 阿刀 姓氏録 万葉九ノ走又。渡。を用ひられしハ不正。

あど 跡

ど○ 安刀 万十五ノ十二丁 神代紀又度。を用ひらるゝハ不正。

あどしめ 未考 ど

皆○ 阿都圖唎 紀継体

あどり 䳺子鳥 ど○ 阿等利 万六ノ六丁

あど 何と云ふ なド又同じ ど● 阿枓 万十五ノ十五丁。十四ノ八丁。

あどもひ さそひ立る

主之 ど● みいくさを。安騰毛比ぐあひ 万二ノ卅四丁 みふねを

を阿騰母比ゝてゝ 九ノ廿八丁 安騰母比てこぎゆくとさるハ 廿ノ十八丁

十七ノ走又ハ登。を用ひられども今ハ係まらり登。を係るの処よも多く用ひられり。

十七ノ裏にハ、登。を用ひられども、今ハ沼まゝり
よりつ、登。を沼まの処にも多く用ひたり。

アナ

あなふやし 此説古事記傳ニ委し ○ ー○ 阿那迩夜志 古上

あなほべ 人名 ほ○ へ● 穴大部王 古下 欽明

あなし 大和ノ地名 ー○ 痛足 万七ノ六丁 穴師 姓氏録

アハ

あはぢ 國名 ち● 阿波旋辞摩 紀應神 安波治 万十五ノ十二丁

あは 南ノ國名 は○ 阿波 紀景行 万一六ノ卅丁

あは 東ノ國名 は○ 安房 万九ノ十七丁

あはちま 美濃ノ郡名 ち○ 安八磨郡 紀天武 安八郡 和名抄

あは あはくしきこと は○ 安幡 万二ノ卅七丁

あはびたま 鰒玉 ひ

●だ○ 安波妣多麻 万十八ノ廿三丁。廿四丁。

阿波礼 古中崇神 紀ヌ婁を用ひるハ不正。

布 古中神武 阿波赴 紀同

神代紀ヌ豆を用ひるハ不正。

あはれ 歎息ノ詞 は○

あはふ 粟生 ふ○ 阿波

あはち 畔放 はち○ 阿波那知 古語拾遺

あはき 檍 はき○ 阿波岐 古上。紀神代。

あはぞま 不逢 ぞ● 安波受麻 万十五ノ廿六丁 コリズ一も是ヌひとし。

あばのぬ 地名 は● 阿婆努 紀皇極 阿婆乃野 万七ノ四十一丁

アヒ

あひらひめ 人名 ひ皆○ 阿比良比賣 古中神武 大隅ノ国始羅アヒラ郡も此ゟ名

ヨリあれを。ぴを用ふべし。

あひづ 陸奥ノ郡名 つ● 安比豆 万十四ノ十五丁

ひだ 間 だ● 阿比陀 万五ノ五丁 安比太 十七ノ廿八丁

あびこ 人名。又地

あ

名。吾孫。ひ● 阿毗古 古中開化 阿弭古 仁徳紀景行。比ヲ用ひしるハ不正。

あび 紀伊ノ國ノ地名 ひ● 阿備 紀景行

アフ

あふみ 國名 ふ○ 阿布美 古中仲哀 阿甫弥 紀顕宗

あふさかやま 地名 さ○ 安布左可山 万十五ノ卅九丁

あふち 楝 ち○ 安布知 万五ノ六丁。十七ノ十丁。十一丁。

あふぐ 仰 ふ○ く● 阿布藝 万五ノ四十丁

あふさわ 等閑 同じ。よ さ○ 相佐和 万八ノ卅七丁

あふ 又逢。合 ふ○ 阿布古下履中 阿波牟徒仁徳 阿閇紀允恭 安波ざれど 万十五ノ卅七丁 万葉九ノ五十二丁ニ阿倍とあるハ不正。

あぶら 油 ふ● 阿夫良 古下雄略。万十八ノ十八丁

あぶみ 鐙 ぶ● 安夫美 万十七ノ四十九丁

あぶさは

へ● 阿倍橘 万十一ノ廿八丁　かるゆゑなれど。定めがたけれど。姑く旧記の説によりぬ。

あは

あさ さぶらふ ● 安夫左波受 万十九ノ廿九丁　今本に夫を足に誤れり。今ハ師の考へによりつ。

アヘ

アホ

あへく 喘 へ○ 敢而こぞなる 万九ノ八丁　三ノ廿四丁に。阿倍寸とあるハ不正之。

あへて 敢 へ○ 上ノ条に准じてへへと清ムべし。

あへしま 筑紫ノ地名 へ○ 万葉十二ノ廿四丁に。玉勝間安倍島山とある同処の。かつまのふるとみとあふとらひつきゆれど。アヘとはりてハふかしつらず。ちなみハらひのなさもゐとく清るをとのてり。又万葉なるハ倍を清てよむ処も多し。

阿閇嶋 紀仲哀

あへ 人名。又姓。伊賀ノ郡名。 へ○ 阿閇麻呂 紀天武 阿閇ノ臣 孝元 阿拝 和名抄 阿拝ノ郡 敢國ノ神ノ社 神名帳

あべ 駿河ノ郡名。又姓。 へ● 阿倍 万十四ノ廿八丁　阿倍と阿閇と二ツありて清濁異之。阿閇のあへハ敢とも書り。清ムべし。孝元紀に。大彦ノ命ハ是阿倍ノ臣云ゝ阿閇ノ臣云ゝ之祖也とありて清濁を分てり。又姓氏録にハ阿倍ノ朝臣と阿閇ノ臣とあり。万葉一ノ十八丁に阿閇ノ皇女。八ノ十四丁に。阿倍ノ広庭ノ卿など混べからず。

あべたちばな 橘

と。阿部ノ臣とあり。万葉二ノ十八丁ニ阿閉ノ皇女。八ノ十四丁ニ。阿倍ノ廣庭ノ卿など混へかきつ。

あべのたちばな 橘

へ●阿倍橘 万十一ノ廿八丁 かゝる所あまたあれど。定めかたかれど。姑く先哲の説によりぬ。

あほ 地名。又姓之。ほ○阿保山 万十ノ十丁 阿保ノ朝臣 姓氏録

アマ

あまかし 大和ノ地名 か○甘樫アマ柯之 紀斉明

あまざかる 鄙の枕詞 さ●か○阿麻社迦留 万五ノ六六丁 安麻射可流 十八ノ六九丁 とハ移りあれども皆同じかれど書きつ。紀ノ四ノ廿十六丁ニ。天佐我留。神代紀ニ天ノ佐箇屡とあるハ正しからず。某ザカルといふ例ある所之。

あまのがは 天にある川之 か●安麻能我波 万十八ノ廿四丁 安麻能河波 六ノ十四丁 六ノ十三丁ニ可ヲ用ひたるハ不正。

あまのよさづら 天吉葛 さ○つ●あまの與佐圖羅 紀神代

あまてらす 天照 て○●難定 安麻泥良須神のみこと 万十八ノ廿三丁 十五ノ十七丁ニ安麻弖流月。

ともあれ。但し弖ハ濁音の処なるも多く用ひあり。泥ハ濁音なれども。アマテラスとりふ言。今の世なべて清音ふとなふれど。いかゞあらむ。されど。古事記柱巻ノ段に、あさひのひ傳流ともあれど。除しくて濁るべくハあらねど。かけまくもかしこき大御神の御名ふしあれど。あまてらふハ定めがたくなむ。

あまだむ 天飛 む● 阿麻陀牟 古下允恭 阿摩儴霧 紀同 こはアマトブのトを夕に通ハしブをムに通ハしていへるなり。タをはるハ古への音便なり。一本にハあま陀牟とあるハ。変ありて誤なり。

あまくも あまハ輕ク添之 く○ 安麻久毛 万十四ノ十二丁。廿八丁。九ノ七丁。十五ノ廿九丁。十七ノ八丁。廿ノ十一丁。

あまがけり 天翔 か● 阿麻賀氣利 万五ノ廿一丁 圕ガケリも除しくてかを濁るべし〔トビカケリはビを濁れどかを清ム〕。

あまそゝり 天迩高ク進上ルさ そ皆○ 安麻曽曽理 万十七ノ四十丁

あまぢ 天路 ち● 阿麻遅 万五ノ七丁 阿麻治 月四十丁

あまごもり 雨隠 こ● 安麻其毛理 万十五ノ廿八丁

あまぶね 海人船 ふ● 阿麻夫祢 万十七ノ廿七丁

あまた 數多 た

○ 安麻多 万十九ノ廿一丁 十七ノ四十五丁

あまひ 物の微之 ひ○ 阿摩比 古上

○安麻多 万十五ノ廿一丁 十七ノ四十五丁

あまひ 物の徴之 ひ○ 阿摩比古上

アミ アム アメ

あみはり 網張 は○ 阿弥播利とこし 紀神代

き● 奄藝（アム） 阿武義 和名抄

あむぎ 伊勢ノ郡名

あむち 大和ノ地名 ち○ 淹知（アム） 古上

あめくにおしはるきひろには 欽明天皇 はき○ 天國押波流岐廣庭ノ命 古下欽明

あめつち 天地 つ○ 阿米都知 万廿ノ廿九丁。十五ノ廿四丁。

あめひと 京の人 ひ○ 安米比度□ 万十八ノ十七丁 比し度。を用ひしは、正しからず。

アヤ アユ

あやかしこね 神号 かしこ皆○ 阿夜訶志古泥ノ神古上

あ

【やかき】文ある物を垣ノ如ク張レルヲ云　か○　阿夜加岐古上　【あやめぐさ】菖蒲

く●　安夜賣具佐万十八ノ九四丁　【あやまち】過　ち○　安夜

麻知万十五ノ九三丁　【あゆち】尾張ノ郡名　ち○　年魚市（アユチ）万三ノ十九丁　愛知（アユチ）和名

抄　【あゆはしる】鮎走　は○　安由波之流万十七ノ四十四丁　【あゆ】

【ひなたすも】脚帯を為ス之　ひ○　た●　阿遥比那陀須紀雄略

アラ

【あらしと】人名　しと○　つぬが阿羅斯等紀垂仁　【あらつの】

【さき】地名　つ○　安良都能左伎万十五ノ十九丁　【あらたま】月日の来経の

枕詞　た○　阿良多麻古中景行。万九ノ十八丁。　【あられふり】枕詞　霰降　ふ

○　阿良例布理万九ノ九七丁　【あらし】嵐　し○　阿良志万九ノ九七

丁 荒足（アラシ）丁 七ノ六

あらひごろも
洗衣 ひ○こ● 安良比其呂母 万十五ノ廿丁

あらびあらぶ
荒 ひふ● 荒夫琉（アラ）神上古 荒（アラ）備 万二ノ廿八丁

あらそふ
争 そ○ 安良蘇布 万二ノ卅五丁

あらはる
顕 は○ 安良波路 万十四ノ十三丁

あらはふ
顕 は○ 阿羅幡貳 紀神代

あらくさだつ
荒草立 く○ ゑ● 阿良久佐太知奴 万十四ノ十八丁

あらがきまゆみ
荒木ノ引 か● 安良我伎麻由美 万十四ノ卅三丁

あらしほ
荒潮 志○ 凡てかくの如くか。な出の多くて。濁の定めがたきもあれど。まづハ清ミてあるべきを。あしまどて古言を考ふるに今の世ニ濁るも。いにしへハ清ミたるもの多かりて濁るハいとまれなるめり。いにしへ濁れるを今清むハ十まに一ツ二ツなるまず。されど假字書の例なきハ今清ム云ハ。まづしく清書やし。つ皆かくのごとし。

アリ

アル

アロ

ありがよふ　在通　か●　安里我欲比　万十七ノ九丁。十八ノ六二丁。二ノ六二丁。三ノ五十九丁。ながらへて久しく通ふをいふに用ひたり。古事記のうたひに阿理加用波勢られハ阿理かよはせ也。いにしへかとかハるゆゑに清音のかなを用ひしるべし。

ありさり　在るがうへに　さ○　阿里佐利　万十七ノ十六丁

ありたゝし　右ハかろし只立に　ゑ○　阿理多多斯　古上

ありがたし　右難　か●　安里我多之　万十七ノ四十五丁

ありきぬ　衣　師曰鮮なり。　き○　●難定　阿理岐奴　古下　雄略　安里伎奴　万十四ノ六三丁

あるく　歩行　く○　阿流久　万三ノ四十七丁

あろじ　主人　し●　安路自　万六ノ五十九丁

アワ

アヲ

あわなぎ　神号　き●　沫那藝神　古上　神代紀に。使を用ひられハ不正

あ

わさく 水ノ沫ノ立之 さ○阿和佐久 古上

あをぬまぬおしひ光 神号 ひ○青沼馬沼押比賣 古上

あをひとくさ 人民 ひく ○阿鳥比等久佐 紀神代

あをやぎ 青柳 ぎ●安平楊疑 万十五ノ七丁

あをくも 青雲の説は紀侍神武ノ歩巻ニ委し く○阿乎久年 万九ノ十五丁

あをかきやまごもれる 青山の垣の如ク廻レル之 か○こ●阿袁加岐夜麻碁母礼流 古中景行 出紀ニ許を用ひこれハ不正。凡て某ゴモリとりふ太る詞に係る之。

○伊部 イカ

いかるが 人名。又鳥名。又地名。 上ノか○下ノか●伊柯屢我 紀雄略 伊加流我 万十三ノ六丁

いかいさこを 人名 上ノか○下ノか●伊

加賀色許男 古中 崇神

いかほ 上野ノ地名 かほ○ 伊加保 伊可保 五十四ノ十三丁・十四丁・

いかこ 姓・又近江ノ地名・ こ○ 伊香胡山 万十三ノ七丁 神名帳にハ伊香具ノ神ノ社とあれども・今ハ清音と しつ・侶し・天武紀に・膽香瓦ノ臣阿倍といふ人ノ名を見ゆ・

いかだ 筏 だ● 五十日太（イカ） 万一ノ廿二丁

いかり 重石 かり○ 太船のかとりの海に碇（イカリ）おろしいかなる人か物おもはざらむ 万十一ノ八丁

いかしほこ 厳矛 かほ○ 伊箇之保虚 紀舒明 イカシは茂ひあるをいへり・加ハすてゝよむべし・延喜式に賀を用ひたるハ正しからず・今俗にイカメシといふもこれなり・

いかしひ 重日 かひ○ 伊柯之比 紀皇極

いかくる いハ発語 隠之 か○ 伊加久流 古下 雄畧

いかき いハ発語 搔之 か○ 伊可伎 万八ノ廿三丁

いかゝる いハ発語 懸之 上ノか● 下ノか○ 伊賀加流 万十四ノ廿八丁

いかへり いハ発語 帰之 か● 伊賀幣理 古下 允恭 異餓幣利 紀 允恭 允て 発語

いがへり いハ発語 帰之 か● 伊賀幣理 古下 異餓幣利 紀 凡て発語のいの下ハ大かた清ニ唱之.濁ルハイガヽルイガヘリのミなり.

いが 國名 か● 伊賀 古中安寧.紀雄略.

いがひめ 人名 か●ひ○ 伊賀比賣ノ命 古中崇神

いがたらしひこ 人名 か● 伊賀帯日子ノ命 古中垂仁

イキ

いき 國名 き○ 伊伎 古上 以祇 紀継体 万葉十五ノ巻ニハ由吉と.もあり.又岐を用ひたるハ不正.

いきる いハ発語 切之 き○ 伊枳羅牟 紀仁徳

いきどほる 思ふ事の心中に有ル之 き● 異枳廼倍呂之功 紀神 伊伎騰保流 万十九ノ十一丁

いきづき 息衝 き○つ● 伊岐豆岐 古中應神.万五ノ十六丁.廿八丁.十七ノ四十六丁.

○都を用ひたるハ不正.又息を継ぎとして清ニ唱ルも非之.

いきのを 生緒 き○

伊吉能乎 五十八ノ廿四丁

イク

いくたまさきたまひめ 神号 ひ○ 活玉前玉比賣 古上

い

くめび 神号 む○ ひ● 神活須毘神 古上

いくゑいかび

こいさち 垂仁天皇 ひ● くさち 三ツ ○ 伊久米伊理毗古伊佐知ノ命 古中崇神 凡て。神号にまれ。人の名にまれ。イリビコ〽イリビメといふヒ。皆はゐる縮なり。古訓ハ美麻紀伊理毗古沼羽田之入毗賣〽阿邪美能伊理毗賣〽布多遅能伊理毗賣など。皆はゐるのかなを用ひたり。

いくたまよりび

ゐ 人名 ひ● 活玉依毗賣 古中崇神 其よりひめといふ。溝名は。ヒメとも。ビメとも。清ほゐをかりて用ひたり。飯依比古〽狹手依比賣〽伊須氣余理比賣〽水穗五百依比賣〽香用理比賣〽狹依毘賣〽玉依毗賣〽稲依毗賣など。なり。但し。ヒメともいふを。ヒコともいふハ。飯依比古のみ。

いくぢ 人名。地名。 く○ ち

● 伊久治 続日廿六

いくひ 人名 ひ○ 伊句辟 紀崇神 伊區比

● 伊久治 續日 九六

いくひ 人名 ひ○ 伊句辟 紀崇神 伊區比

舒明

いくひ 齋杙 く○ 伊久比 古下 允恭

いくり 地名 く○

伊久理のもと 万十七ノ 十九丁

いくり 海中の石之 く○ 伊久理 古下

仁徳。万二ノ 十九丁。 異句理 紀應神

いくみだけ 昨日入組竹ノりヲ省ケル之 く○

ゐ● 伊久美陀氣 古下 雄畧 以矩美娜開 紀継体

いくさ 軍 く

さ○ すゑ〳〵美久佐 万九ノ九 七丁

いくらゐ 幾 く○ 伊久陀

万五ノ 九丁 伊久良 十七ノ九 二丁

いく 生 く○ 伊家流 万十八ノ 十七丁

イケ

イコ

いけ 池 け○ 伊開 紀継体

いこばやわけ 人名 は● こ

け○ 伊許婆夜和氣ノ命 古中 垂仁

いこさな 蝦夷ノ人名 こ○ さ

毗賣るとうり。伯しヒメとりふ多くて。ヒコとりふハ。飯依比古のうこ。

いくぢ 人名。地名。 く○ ち

○●難「定 伊高岐那 紀天武

いこまやま 大和、地名 こ○ 伊故麻山 万十五丁 ○

いごのふ 未考 こ● ふ○ 伊碁能布 古中神武

イサ

いさちもくね 人名 さちも皆○ 伊佐智須區祢 紀神功

いさひもくね 人名 さひ○ 伊佐比宿祢 古中成務

いさつ 泣之 さ○ 伊佐知流 古上

いさなとり 海の枕詞 さな○ 異舎儺等利 紀允恭

いさみ 勇 さ○ 伊佐美 万九、十八丁

いさゝか 聊 さ皆○ 伊佐佐可 万十九、廿四丁 伊左佐目 〆七、廿四丁

いさを 功 さ○ ざはぞと通ひて濁音に、いぞの処をさゝしるべし

いさご 小石 さ○ こ● 異佐誤 紀神功

いさゝぞ 不知(シラヌ)をイサとぞうりを云 さ○

有無之不知(イサ) 紀神功 不知(イサヤ)也河不知(イサ)とをきとせ 万十一、廿三丁 八誤 ばる

万三十八丁不知代経

有無之不知(イサ)紀神功 不知(イサヤ)也河(ガハ) 不知(イサ)とをさとせ 万十一ノ廿三丁ハ誤れる ゝ。こハ次なるイサヨフのイサに。不知と出たるをもて誤れるを知るべし。

いさよひ いさよふ 物のよどこなるゑ。さ○ 射左欲比 万三ノ廿六丁 伊佐欲比 十四ノ廿七丁 伊佐用布 古中景行。万三ノ四十八丁。十四ノ廿七丁。不知(イサヨ)世経(フ) 万六ノ廿二丁。七ノ三丁。四丁。

いさやがは 近江ノ地名 さ○ 不知(イサヤ)哉川(ガハ) 万四ノ十二丁

いさには 伊豫ノ地名 さ○ 射狭庭(イサニハ) 万三ノ廿八丁 伊佐尓波ノ神ノ社 神名帳 狭ハ訓なれども古書に皆清て用ひなり。

いざなぎ 神号 さき● 伊邪那岐ノ神 古上 伊射奈藝ノ命 丹後風土記 出雲風土記に枳を用ひ、延喜式に伎を用ひたるハ不正なれて。ナギ。ナミと並ぶ御名のギは清る例に。沫那藝ノ神 沫那美ノ神 頬那藝ノ神 頬那美ノ神みるべし。

いざなみ 神号 さ● 伊邪那美ノ神 古上

いさわけ 神号 上ノさ● 下ノさ○ 伊奢沙和氣ノ大神 古中仲哀

いさ

い

ざのまわか 人名 さ●か○ 伊奢能麻和迦ノ王 古中 應神

い **ざほわけ** 人名 さ●ほ○ 伊邪本和氣ノ命 古下 仁徳

いざか **は** 大和ノ地名 さ●か○ 伊邪河(カハ) 古中 開化 伊社箇波 紀 同 率去河(イザカハ) 万七ノ八丁

此地名の清濁みだれ。上ッ代には清音の二ッハつゞかざるをさだむるべし。後世人の唱へきたりしうたゞ。イザガハと二ッとも濁りきたりし。故ニ按に〳〵ウヂガハヨドガハなども。チドを濁れどかをば濁べくもあらぬ。後世の説なるはフジガハアベガハと。今もかを清てとなふるをや。万葉廿に久慈我波とあるハ東歌なれど。なべての例にはひきがたし。

いざは 志摩ノ地名 さ● 伊雑(ザハ) 和名抄 伊射波ノ神ノ社 神名帳

いざ〳〵いざなふ さそひ立ることに さ● 伊邪古 中 應神 伊裝 紀 同 伊射 万十九ノ四十五丁 伊射奈比 十七ノ四十五丁。十八ノ廿丁。凡て万葉には。かなならぬ処も。さそふ事のイザなるハ去来率去と書るられハ濁る。不知の事ハサを清。なれ。書紀もさうり。んなつくべし。

いざ **り** 魚を取之 さ● 伊射理 万十五ノ十三丁 伊躾里 廿ノ廿五丁 此言葉ことは。於あるられ

りｰ 魚を取之 さ● 伊射理 万十五ノ十三丁 伊躲里 六ノ六五丁 此言巻とよ 取あらうれ

ども。異なるぬなるをさつ。又十五ノ巻よ八。伊射流火ハと活用してもいへり。

イシ

いしこりどめ 神号 こ○ど● 伊斯許理度賣命 古上 伊之居梨度咩 紀神代

いし 石 し◎ 異之 紀神武

いしひめ 人名 ひ○ 石比賣命 古下宣化

いしのはし 伊勢ノ地名 し○ 五十イ師ノ原 万十三ノ五丁

いしかは 石川 か○ 以嗣箇播 紀神代

いしつい 石椎剣名 つ皆○ 伊斯都都伊 古中神武。紀同。

いしいしき

いしけ いハ発語及ヘ きけ○ 伊斯岐ノ伊斯祁 古下仁徳 伊辞枳ノ伊辞鶏 紀同

いしたふや 上古の哥の調ニ添フル詞 たふ○ 伊斯多布夜 古上

いじむ 上総ノ郡名 し● 伊自牟 古上 伊甚(じむ) 紀安閑

イス

いすゝぎひめ
人名
二ツノすトひトヲ○す● 富登多多良伊須須岐比賣ノ命 古中 神武
ろせゝぬ。らのぬ。も。
二ツともに清べし。

いすけよりひめ
人名
すけひ○ 比賣多多良伊須氣余理比賣 古中 神武
ひめ。ぷ。らのぬ。も。
二ツともふ。清音なり。

いすゞ
伊勢ノ地名
上ノす○ 下ノす● 伊須受能宮 古上

いすくはし
鯨の枕詞へ
く○ 伊須久波斯 古中 神武 伊殊區波辭 紀 円

イセ

イツ

いせ
國名
せ○ 伊勢 古中神武。紀景行。万一ノ十四丁。 伊齊 紀神武

いそのかみ
大和ノ地名。又枕詞。
そ○ 石上(イソノカミ) 古下履中。紀仲哀。万六ノ廿六丁。 伊須能箇瀰 紀武烈

神名帳ニ。伊勢ノ國ニ。伊
蘇上ノ神ノ社もそ伊。

いそま
地名
そ○ 伊素末此ゟ

神名帳ヌ。伊勢ノ国ヌ。伊蘇上ノ神ノ社も見ゆ。

いそま 地名 そ○ 伊素末比う

万十五ノ七丁

いそ 礒 そ○ 伊蘇 古中景行。万九ノ十七丁。伊宗 万九ノ十六丁

いそひ いハ発語副之 そ○。伊蘇比 古中應神

いそばひ いハ発語。俗言のソバヘル之。 は● 伊蘇婆比 万十三ノ五丁

いそし 功。又姓之。 そ○ 伊蘇志 紀仲哀。続日十七。姓氏録。 伊蘇波久 万一ノ九二丁

いそく 今りよ用ゐ之 そ○

●難定 己蘇伎 万九ノ九丁。一処のミ之。

イタ

いたび 人名 た○ ひ● 伊拖寐 紀安閑

いたむ いハ発語。廻之。

た○ 伊多年流 万九ノ廿七丁

いたる 至 た○ 伊多流 古中應神

いたど 板戸 た ど○ 伊多斗 古上。万五ノ九丁。 伝るハ誤之。又陀度を用ひるハ不正。

いたづら 徒 つ● 伊多豆良 万五ノ十九丁 十七ノ廿七丁

いたゞき 頂 上ノた○ 下ノた● 伊多太伎 万廿ノ廿九丁

いたて 痛手 て○ 伊多氐 古中仲哀紀 神功

いたはし 労 たは○ 伊多波斯 万五ノ廿八丁

いたく 甚 た○ 伊多久 古上 伊多をすべるゝ 万十五ノ廿九丁

いだく 抱 た● かき武太伎 万十四ノ十二丁

いたけそ 社名 た● けそ○ 伊太祁曽 続日二 神名帳 和名抄

イチ

いちきしまひめ 神号 ひ○ 市寸嶋比売命 古上

いちゐ 姓又地名 ひ○ 壹比韋臣（イチ） 古中懿徳

いちひ 木名 人名 ひ○ 伊智比 万十六ノ廿丁 出紀ニ眦を用ひるハ不正之

いちびこ 地名 ち○ ひ● 伊致寐姑 紀雄略

いちびしま 近江ノ地名 上ち○ 下ノち●

伊致寐姑 紀雄畧

いちびしま 近江ノ地名 上ち○ 下ノち●

伊知遅志麻 古中應神

いちし 伊勢ノ郡名。又花名。 し○ 壹師ノ君 古中懿徳

壹師ノ花 万十一ノ十一丁

いちさかき 木名 さ○ 伊知佐加紀 古中神武。

紀。円。

いち 市 ち○ 伊知 古下雄畧

いちしろし 明白 し○

伊知之路久 万十七ノ十六丁 ほるハ後之。

イツ

いつひこ 人名 つひ○ 伊都都比古 紀垂仁

いつはぬ 越前ノ

地名 つは○ 伊都波多 万十八ノ十丁

いつき いハ発語 槻ノ木ヘ つ○

伊蒄岐 紀仁徳

いつくも いハ発語 盡スヘ つ○ 伊都久須 万十八ノ廿二丁

いつく 齋 つく○ 伊都久 古上。万十九ノ廿五丁。

いつ 何時 つ○

伊都 万十五ノ四丁。六八丁。

いつも

藻 名 つ○ 伊都藻 万四ノ十三丁

いつがり

副と云フに近し。 つ○か● 伊都我里 万九ノ六五丁 十八ノ六六丁

いつをせ

五年 つを○ 伊都等世 万五ノ六六丁 一ノ七に。嚴橿(イヅカシ)を。五(イツ)可新(カシ)と云れど。古へハ五(イツ)のツを。濁りしことも見へど。餘ハあしゞ。とハ勝牡鹿乃方柱(イチサシ)など云るあひまて。不正とすべし。万葉にも。かくのめき違ひまれにハあり。心をつけて正すべし。

いつ

稜威 つ○ 伊都のをはぢめ伊都のをたけび 古上 稜威此云フ伊都ト 紀神代上 濁るハ誤なり。嚴(イ)とハ異之。延喜式ニ。頭を用ひたるハ不正。

いづのめ

神号 つ● 伊豆能賣ノ神 古上 これハ伊邪那岐ノ大神の筑紫のあはきがはらにて。身滌なして清浄になりたまひし時に所成神なり。凡て清浄なる意のイヅは皆づを濁る例之。次ゝに挙るをみてさとるべし。又稜威とかくイツはツを清べし。ちなみ記古紀に。此差別いとあきらかにして。清濁のかなの用ひさまも厳然として。混ずべからず。

いづかし

清浄なる樫之 つ●か○ 嚴橿之本(イヅカシガモト) 紀垂仁 これハちなみ記紫鳥ノ頃に伊都加斯なる葉一ノ七に五可新と清音のか

るを用ひられど。清べきこともあれど。今ハ古紀と昨の考へをふまりてゝつ

いつへ

清らる器之 つ●

るを用ひられど。清。べきこのことも見えど。今ハ古紀と作の考へをふまりて為とし□つ。

いつへ

清らる器之 つ●

へ○ 嚴瓮此ヲ云ニ怡途背（イツヘ）紀神武

いづのみたま

浄霊 つ●

撞賢木嚴之御魂（ツキサカキイツノミタマ）紀神功 ほるゝ上ノ条にて志るゝ。

いづのかきり

清浄かし

て咒術を為之。 つ●志○ 怡途能伽辭離 紀神武

いづし

但馬ノ地名

つ●し○ 伊豆志をせめ伊豆志之八前大神 古中 伊鹿神

豆志坐神ノ社 延喜式

いづてぶね

船ノ名 つふ● 伊豆手夫袮

万廿ノ十九丁 伊豆手乃船 同四十九丁 伊豆ノ五手船のことなりとぞ。つを濁ミてよむ。

いづも

國名 つ● 伊豆毛 古中 伊頭毛 紀崇神 同 紀にも都を用ひたるハ不正。

いづ

もゝのける

出雲ノ國ノ猛キ人ヲ云フ ふ○ 伊豆毛多祁流 古中景行 紀同。

いづ

國名

つ● 伊豆 万十四ノ四丁

いづみ

泉。又地名。國号。 つ● 伊豆美の

かハ 万十七ノ十丁 出見河（イヅミガハ）九ノ十一丁

いづく・いづち・いづ・いづれ 何

つ● 伊豆久 古中應神 伊豆知 万五ノ六八丁 伊頭礼 十七丁 伊豆良 十五ノ六四丁

都。を用ひたるハ正しからず。

イテ

いでは 國名 て● 出羽（イデハ）和名抄 神名帳に。伊氐。波ノ神社とあるハ不正。

いで ゐち 出立 て● ゐ○ 伊傳多知 古下仁徳 伊尼多多武 万十七ノ六七丁

雄畧紀に伊底。掩智。万葉十八に。伊天。多知とあるハ不正。

出波之利（イデハシリ） 万五ノ六八丁

いでます 行幸 て● 伊提麻志 紀天智

いではしり 出走 は○

いでませ 御坐 て● 伊提麻栖 紀天智 万葉六に弖。を用ひたるハ不正。

いで 発語 て● 異提 紀允恭 伊低 万十四ノ十七丁

イト

いとしわけ 人名 とし○ 伊登志別ノ王 古中垂仁

いとゐひめ 人名 ひ○ 糸井比賣 古中景行

いと 筑前。紀伊ノ郡名。 と○ 伊斗 古中仲哀 伊覩 紀同 伊刀 天武 伊都 和名抄

いと 糸 と○ 伊刀 万六ノ廿六丁

いと 甚 と○ 伊等 万五ノ廿七丁 伊刀 廿ノ廿七丁

いとのきて 甚除 との○ 伊等乃伎提 万五ノ廿丁。廿七丁。十四ノ廿二丁。

いとふ 厭 と○ 伊登波祢ど 万十七ノ九丁

いとる いハ發語 取之 と○ 伊斗良牟 古中應神 伊刀良斯 万五ノ十三丁

いとま 暇 と○ 伊刀末 万廿ノ四十八丁。十五ノ廿一丁 廿ノ處又。伊豆麻とあるハ不正。

いとこ 師曰。人ヲ親てゐふ詞之。 と○ 伊刀古 古上。万十六ノ廿九丁。 伊徒姑 紀神功

いとむ 挑。 と● 伊杼美 古中崇神

いなせびこ 人名 ひ● 稲瀬毗古ノ王 古中垂仁

いなひ 人名 ひ○ 稲飯命(イナヒノ) 紀神武

いなよりびめ 人名 ひ● 河股稲依毗賣(カハマタノ) 古中開化

いなび 人名。播磨ノ地名。 ひ● 伊那毗ノ郎女 古中景行

いなりむし 蝦夷ノ人名 し○ 伊奈理武志 紀持統

いなゐ 姓 ゐ● 伊那陀宿祢 古中應神

いなき 姓 き○ 稲置(イナキ) 古中安寧 置。ハかなるあらねどほるべうしらず。

いなき 稲城 き○ 稲城(イナキ) 古中垂仁 城。ほるべうしらず。

いなさ 出雲。大和ノ地名。 さ○ 伊那佐之小濱(ノヲハマ) 古上 伊那佐のやま 古中神武 伊那瑳のやま 紀同

いなさほそえ 遠江ノ地名 ほ○ 伊奈佐保曾江 万十四ノ十五丁

いなは 國名。又稲葉。 は○ 因幡(イナハ) 紀雄畧。和名抄。二八

保曽江 万十四ノ十五丁

いなは 國名。又稲葉。 は○ 因幡(イナバ) 紀雄略。和名抄。 二八

正しき假字にはあらねど。読むべくおもなる。凡て國号などハ。今の世に用ゆる文字など。読ミハまさしく遠からず。出雲。冊波。近江。武蔵。伊豆。甲斐。相模など。おもひあはすべし。

いながら 稲柄 か● 伊那賀良 古中景行

イニ

イヌ

イノ

いには 下総ノ郡名 は○ 印波(イニ) 万廿ノ廿一丁 今の俗にインバとよめるハ誤なり。

いぬひめ 神号 ひ○ 伊怒比賣 古上

いのち 命 ち○ 伊能知 古上 伊能致 紀雄略

イハ

いはつちびこ 神号 ひ● 石土毘古ノ神 古上

いはすひめ 神号 ひ○ 石巣比賣ノ神 古上

いはながひめ 神号 ひ○ 石長比賣 古上

いはさく 神号 さ○ 以簸娑窶根裂神(ネサクノカミ) 紀神代

い

はつきびめ 人名 ひ● 石衝毗賣ノ命 古中 垂仁

いはのひめ 人名

ひ○ 以破能臂謎 紀仁徳

いはおしわくのこ 人名 しく

○ 磐イハ飲時和句之子ノコ 紀神武

いはぬぬ 地名 對馬ノ ぬ○ 伊波

多野 万十五ノ 六四丁

いはせぬ 地名 せ○ 伊波世ぬ 万十七ノ 六七丁

**い

はれ** 大和ノ地名 は○ 以簸例 紀継体

いはむ 群集 は○ 色聚

居此ヲ云フ怡波瀰菱ニトー 紀神武

いはひ い、ハ発語 延之 は○ 伊波比 古中

神武。紀同。

いはひ 齋 ひ○ 伊波比 万十五四丁 伊波布 十九ノ四十一丁

紀ゑ毗。を用ひくは八不正。

いはひへ 神祭の時。備物する器之。 へ○ 伊波比弊

万六ノ卅二丁 倍。を用ひるハ不正。

いはつ い、ハ発語 舟ノ泊之 は○ 伊波都流

万十八ノ卅二丁

いはくら 磐坐 く○ 以簸矩羅 紀神代。

いはほ 磐

ほ○ 伊波保 万六ノ四十七丁

いはがね 磐 か● 伊波我祢

ほ○ 伊波保 万九ノ四十七丁

いはがね 磐 か● 伊波我祢

万十五ノ六四丁

いはのへ 岩上 へ○ 伊波能杯 紀皇極

いはた

を 岩ノ上ニ立之 た○ 伊波多多須 古事記中仲哀 紀神功。

いはき 岩木 き

○ 伊波紀 万五ノ七丁

いはねこごし 岩の凝テ峻キを云 上ノと○ 下ノと

● 石根許其思美 万三ノ四十四丁 許其志かもいはのかむさび 十七ノ

四十一丁

いはねさくみ 師の古事記伝ニ曰ク。人の血のゐくぐくあるを。さくゝミつゝを云フニ同しくて。岩の凸凹ある

上を通行を云フ。 く○ 伊波祢左久美 万二ノ廿九丁 六ノ五十丁

いはくえ 岩崩

く○ 以播區娜輸 紀仁徳 伊波久叡 万十四ノ六丁

いはじる

岩間を水の流ルゝ之 は● 伊波婆之流 万十五ノ十丁

いはゐつら 是ハ一種の蔓草ゝ。 つ○ 伊波爲都良 万十四ノ八丁

イヒ

いひよりひこ　讃岐ノ国ノ又ノ名　ひ○　飯依比古 古上

いひぼ　播磨ノ郡名

ほ○　揖保(イヒ) 続日四十。和名抄。

いひ　飯　ひ○　伊比 古紀推古

い

いひはへ　言祓　は○　伊比波良倍(ロ) 万十七ノ十一丁　倍°を用ひたるハ不正。

いひづつ　云之　つ●　曰豆良賓(イヒ) 万十三ノ六二丁　其づゝひといふぷなる你なり。

イフ

いふや　出雲ノ地名　ふ○　伊賦夜 古上　伊浮瑯 明紀斉

いふかさへ

蝦夷ノ地名　ふさ○　伊浮梨娑陛 紀斉明

いふかし　鬱悒　ふ○

いふかる　上ノ条に同

伊布可之 万十一ノ六四丁　言借(イフカリシ) 四ノ卅九丁。十一ノ廿三丁。十二ノ廿三丁。

ふ○　言借石(イフカリシ) 万九ノ廿二丁　とあるなるハ誤之。言借ハかなふかハあらねど。斉明紀に、出雲の地名イフヤを言屋と

かさて。訓註に伊浮瑯とあり。凡て万葉にハ假字ならぬ処にも捿とあるが
いと多し。然しまれにハ此格にかなはぬ処もあれども。そハいとすくなし。故に

かさて、訓註に伊浮揶とあり。凡て万葉にハ假字なる処にも擬とするも
いと多し。然しまれにハ此格にかゝはらぬ処もあれども、そハいとすくなし。然かし
むるハ、古書をよく考へて、あのがさうしらをも、參交ふべきなりなハあ
らず。後世人ハいとみだりにて、くちにハ清音によみへあらがし。假字のをだ濁音
を用ひ、清音の処へ濁音を用ゐる
ハらのみぞや。心すべきことざるなり。

いふせし 同上ニ ふ○ 伊夫勢

いふき 息吹 ふ○●難定 伊浮美 万十八ノ廿九丁 夫を用ひたるハ不正。

いぶき 近江ノ地名 ふ● 伊服岐能 紀神代 浮ハ清音なれど、一処のみこゝ。

古中山景行

イヘ

いへぢ 家路 ち● 伊敝治 万五ノ十五丁 伊弊遅 同廿一丁

いへごと 家人の言傳へ こ● 伊倍其登 万廿ノ廿三丁 倍を用ひたるハ不正。家のへハ清音なり。

いへびと 家人 ひ● 伊弊妣等 万十五に多し 比を用ひたるハ不正。

い

へづを 家墨 つ● 伊敝豆刀 万十五ノ九八丁 伊弊頭刀 九ノ九八丁 都を用ひるを処もあれど。はきによりつ

いへざかり 家離 さ● 伊弊社可利 万五ノ九丁 某ザカルと云フはル略也。

いへどほく 家遠 ど● 伊弊杼保久 万十五ノ九九丁 某ドホと云ふド°太きなる略也。\ふど°\さど°\みちとしど°ゆくなど なる言也。然し\いやどほと\まどほとのど°八清るあり。二八濁処にて見由。

いへこひし 家戀 こ○ 伊弊胡悲之伎尓 万十五ノ十六丁

いへつく 家着 つ○ 伊敝都可受 万十五ノ十六丁 伊敝都久 円爪一丁 家云こといふ言多くある也。然し云のふりによりて。なべてハあるべくのしず。凡て清ある八体言用言の云のさまによりて。其の清と濁るもあれど。其のゝ体用ともかくもしずて。上代よりのさだまりとえゆるもあるなり。

イホ

いほまろ 人名 ほ○ 伊保麻呂 万九ノ十七丁

いほち 五百ちヾ 一都二都

そうふ都に同じ

ほち○ 伊本知 古下雄略 伊保知 万十八ノ九三丁 按に\三十チ\四十チ\六十

とゝふ都ヽ同じ

いほち ほち○ 伊本知 古下 雄略 伊保知 万十八ノ廿三丁 按ヽ三十チ四十チ六十チ七十チ八十チ百チ千チまぐのチも本ハ皆清しかるべし。一ツ二ツのツも清る之。凡てかくの如くのぢつハ、数の下へつく詞之。又俗云ふも二十あまり。正しく波多知と清でとなふるをや。仏足石哥ヽハ弥蘇知とあり。又万葉廿ノ廿二丁ヽ夜豆とあるハ豆の字の用ひさま正しからず。

いほつゝなはふ 五百縄延之 つは○ 五百都々奈波布 万十九ノ四十四丁

いほつとり 五百鳥 つと○ 伊保都登里 万十七ノ四十五丁

いほふる 五百ノ斧の柄之 ふ○ 伊褒甫流 紀雄略

いほ 庵 ほ○ 伊保 万葉ヽ多し

イ下

いまき 地名 き○ 伊磨紀 紀斉明

いまし 汝 し○ 伊麻

思 万十四ノ五丁

いまさら 今更 さ○ 伊麻佐良 万十五ノ廿二丁

いま

ゑ
未
ゑ● 伊麻陀古 上 伊麻娜紀 継体 拖°多°他°を用ひとる八不正。
い

まもいませ
行○ もせ○ 伊麻須 万十五ノ四丁 伊麻勢 万五ノ卄一丁
い

まも
おはしますこと
も○ 伊麻須古 下 仁徳 伊麻輸紀 神功

イミ イム イモ イヤ

いみがこ
人名
か● 伊美賀古 王 古下 欽明

いみさ
姓
さ○

伊美吉 万十九ノ卄一丁。卄三丁。

いみづかは
越中ノ国射水ノ郡ニある川ノ名
つ●

か○ 伊美豆河波 万十七ノ四十五丁 ○ 河°を用ひしは正しからず。都°を用ひたる処も遠し。又

いむかふ
師曰。ふむかひ敵みむ三
か○ 伊牟迦布 古上

いもせ
妹男
せ○ 妹世（イモ） 万二ノ九六丁 仁賢紀ニ是°を用ひられしハ不正。

いやちこ
灼然
ちこ○ 以耶知挙 紀景行

いやてり
弥照
て○ 伊夜氐里

万十八ノ卄一丁 ○

いやゑか
弥高
ゑ○ 伊夜多可 万九ノ卄四丁

いやを

ちこ○ 以耶知挙紀景行

いやてり 弥照 て○ 伊夜氐里

万十八ノ卄一丁

いやたか 弥高 た○ 伊夜多可 万九ノ卄四丁

いやとほ 弥遠 と○ 伊夜等保 万十八ノ卄三丁

いやたて 弥言立を為之 た○ 伊夜多豆 万十八ノ卄一丁

いやさや 弥清 さ○ 伊夜佐夜 古中神武

いやざかり 弥離 さ● 伊夜射可里 万十四ノ十三丁 いやと云ことをくりかへす云るは清音なるよこれのミ濁るハ集お由急なるや。

いやひこ 社名 ひ○ 伊夜比古ノ神ノ社 神名帳 こハ決そてもいひつべけれど姑くよりぬ。

いやし 賤 し○ 伊夜之 万五ノ十九丁

イユ

イヨ

いゆきさぐくみ 岩根さくみト云に同 上ノく● 下ノく○ 伊由伎佐具久美 万九ノ十八丁 四ノ四十六丁。

いゆきのりたち 行立 た○ 伊由伎能里多知 万十七ノ卄二丁

いゆしし 射らるゝ猪鹿之 し○ 以由之々

紀斉明

いよりだたし い、発語 寄立之 上ノた● 伊余理陀多志 古下

雄略 万葉十七ノ卅一丁ニ余里多多志とあるハ違ひなるへし。

イラ イリ イロ

いらご 三河ノ地名 こ● 伊良虞 万一ノ十五丁

いらつめ 郎女トモ云テ女ノ称之 つ○ 異羅菟咩 紀景行 伊羅都賣 天智

いりまち 地名 ち● 伊利麻治 万十四ノ八丁

いりたつ 入立 た○ 伊理多多受 古下 清寧

いりひさし 入日差 ひさ○ 伊理比沙之 万一ノ十二丁

いろせ 兄 せ○ 伊呂勢 古上

いろど 弟 ど● 蠅ハヘ伊呂杼 古中 安寧

いろづく 色著 つ● 伊呂豆伎 万十五ノ卅六丁

いろふかく 色深 ふ○ ●難」定 伊呂夫可久 万廿ノ四十一丁 一処のミ之。

○宇部 ウカ

うかのみぬま 神号 か○ 宇迦之御魂ノ神 古上 宇介能美拖磨 紀代 神手伽能迷 神武 ほるハ誤之。

うかし 人名 か○ 宇迦斯 古中 神武 宇介志 紀同・

うかつ 穿 か○ 穿邑此ヲ云フニ 于介知能務羅ト 一 紀神武

うかのやま 出雲ノ地名 か○ 宇迦能山 古上

うかがふ 伺 か○：宇迦迦波久 古中崇神 于介伽毘 紀同 ほるハ誤之。万葉八ノ四十二丁ヱ。宇加涩良比ともあり。某カヒとりふ誤ニ云之

うかひ 鵜養 姓之 か○ 宇加比 古中神武 宇介譬 紀同

うかは 游川 か○ 宇加波 万十七ノ卅六丁。四十九丁。河を用ひたるハ不正。

うかぶ 浮 ふ● 于可倍 万五ノ十九丁

うがら 親族 か

● 宇我邏 紀神代 ハラガラをなるを。是よ従しくて。ヤガラとも なるべし。トモガラもをぞ。今もなるあり。

ウキ　ウク　ウケ　ウコ

うきゆひ 盞結 さひ○ 宇伎由比 古上

うきじまりそりたゝ

して 此説師の古事記傳に委し。 志● ゑ○ 宇岐士摩理蘇理多多

斯氐 古上 神代紀に。羽企尓磨梨陀毗邏而陀陀志 とあるは。陀毗をすべての用ひざま正しからず。

うぐひ

す 鶯 く● 汙隅比須 万五ノ十七丁 宇具比須 万十六丁 于遇比須 万十

うけ

八丁

うけもち 神号 けち○ 宇氣母知能加微 紀神代

ぐつ 師曰穿沓之 け○ く● 宇既具都 万五ノ十七丁

うけ 空笥 け

○ 汙氣古上于該 紀神代

うけら 朮 け○ 宇家良 万十四ノ八丁

うけひ 誓 けひ○ 宇氣比 古上

うけひがめ 誓狩 か●

宇氣比餓利 紀神功

うごく 動 こ● 宇呉枳 万十八ノ十九丁

宇氣比餓利 紀神功

うごく 動 こ● 宇呉枳 万十八ノ十九丁

うこなはる 集侍 こは○●「不知」 古ゑよかる ゐあそ〜ず。

〔ウサ〕

うさつひこうさつひ売 人名 さつひ皆○ 宇沙都比古宇沙都比賣 古中神武 宇沙ハ豊前の地名也。

うさかは 地名 さ○ 下ノか● 宇佐可河泊 万十七ノ四十九丁

うさゆづる 弦設 さ○つ● 宇佐由豆嗇 古中仲哀 干瑳由豆流 紀仁徳

うさぎ 兎 さ○ さ● 乎佐藝 万十四ノ廿九丁

〔ウシ〕

うし 大人 し○ あそくひ此宇斯古上 ひこゑ〜すそちの宇

斯日中垂仁　于志紀神代

うしはく

主領　しは○　宇志波祁流古上　宇志播吉万五ノ卅一丁　宇之波伎十九ノ卅六丁　牛吐（ウシハク）六ノ卅六丁

うし

牛　し

○清音なるべし。上ノ条にてあるし。

うしなふ

失　し○　宇思奈波受万十五ノ卅四丁

うしろで

後の振こ　し○て●　宇斯呂傳古中應神

うし

倦　し○　宇之万五ノ卅丁

うど

小虫　し●　宇士古上

うどか

姓　し●か○　宇自可ノ臣續日。姓氏録。　古事記中孝霊ノ段に。牛鹿ノ臣とあれど。ドを清。べきな。は るハ後世の音便なるや。

ウス

うそひ

信濃ノ地名　そひ○　宇須比万十四ノ十一丁。卅ノ卅五丁。

うそふび

薄氷　そ○ひ●　宇須良婢万卅ノ五十四丁

うそ

臼　そ○　宇須

古中仲哀 宇輸 紀神功

うず 鈿又髻華 ず● 宇受 古中景行。万十九ノ四十五丁。于孺 紀推古

うずめ 神号 ず● 宇受賣 古上 古語拾遺ニ於須。女とあるハ不正。

うずすまる 師日群統 上ノす● 下ノす○ 宇受須麻理 古下雄畧

ウタ

うた 歌 た○ 宇多 紀神武

うたひ 謡 たひ○ 宇多比 古中仲哀

うたがき 哥垣 か● 宇多我岐 紀武烈

うたこりひめ 人名 ひ○ 歌凝比賣 古中垂仁

うたき 怒 たき○ 宇多岐 支 古下雄畧 宇多枳円 紀

うたて 轉 たて○ 宇多氐 古下安康 宇多弖 万六ノ十三丁

うたゞぬし 轉楽 上ノた○ 下ノた● 宇多陀怒斯 古中仲哀 于多娜濃芝 紀神功

うたげ 酒宴 た○ げ● 手掌(タナソコモ)

摎亮拍上賜（ナラヽニウチアゲタマフ） 紀顕宗

うぬがぬ

空形の意にて。婥ノの事と。危キ事に用ふ。

か●宇多我多 万十五ノ七丁。十七ノ十八丁。宇多賀多十七ノ六五丁

かぬ佳◦ハ誤なり。

うぬ

大和ノ郡名

ぬ●宇陀 古中神武。和名抄。 于儺 紀日

ウチ

うち

姓。又大和ノ地名。

ち○ 于池のあそ 紀仁徳 内（ウチ）乃大野 万一ノ八丁

ちはらひ

打払

は○ 宇知波良比 万十五ノ十一丁 十七ノ六三丁

うちは

打食

は○ 宇知波米 万十七ノ十七丁

うちかひ

打替

か○ 宇知可比 万十四ノ六三丁

倍◦を用ひたる処もあれバ不正。

うちしぬひ

うちハ発ク 忍之

うちひさし

宮の枕詞

ひさし○●難定

敲（ウチ）自怒比 万十九ノ六三丁

うちひさす

○ 宇知比佐須 万六ノ五十三丁 十四ノ巻にうちひさ都◦。五ノ巻にうちひさ受◦とある皆字誤之。

ちはし

移橋

ちは○ 于知波志 紀天智

うぢ

氏

ち●宇

ちはし 移橋 ちは○ 于知波志紀天 智

うぢ 氏 ち● 宇治 万廾ノ五 十一丁

うぢ 山城ノ地名 ち● 宇遅古中 應神于旋紀 宇治和名抄

うぢのわきいらつこ 人名 ち○ 宇遅能和紀郎子古中 應神

うぢまやま 地名 ち● 宇治間山 万一ノ六 八丁

ウツ ウト

うつしこを 人名 つしこ皆○ 内色許男命（ウツシシコヲノ） 古中 孝元 此外某シコと りふ皆従。深之内色許賣命伊賀迦色許賣命葦原色許男命などあり。従へるべし。

うつゝをつゝ 現在 つ皆○ 宇都追 万十七ノ卅二丁 乎追都 十八ノ九 一丁 五ノ十丁ニ宇豆。都十三丁ニ遠都豆。十七ノ卅四丁ニ乎都豆。十八ノ卅二丁ニ手都頭とあるハ決えて追を豆。ニ写し誤つるなり。こハ追。豆。の字体よく似たるゆゑニ。誤りつるなるべし。

凡て万葉ニハつゝをつゞかるゝハ多く都追とかけり。今をつくべし。此外も。古書ハ言ニつき。物ニよりて。用ふる假字の定りありていと正しきを。

後世人ハ此格のあるをまでさへさてハとみだりなり。此等ハ師の動て
それにまひて。さる記錄ふかつぐ添ひおうれとり。粉妾しきるども八。
假字つかひおくの山路にいひつ。

うつし 顕 つ○ 宇都志伎 古上 紀に圖。を用ひさるハ不正。

うつそみ(せ) 顕在 そ○ 宇都曽見 万二ノ九 六丁 宇都世美 十八ノ九 五丁

うつ 空 つ○ 虚蟬(ウツセミ) 万八ノ九丁 條まで上ノ条にてそへる。

うつらうつら 熟 つ○ 宇都良宇都良 万九ノ四 十六丁

うつくし 愛 つ○ 于都倶之 紀斉明。孝徳。

うつたへ 一向 つ○ 打細(ウツタヘ) 万十ノ九丁

うつて 打棄 つて○ 宇都弖 万五ノ九 八丁

うつる 棄 つ○ ふき于都屢 紀神代

うつろふ 移 つ○ 宇都呂布 宇都呂比 万十五ノ九 九丁

うづ 珍 ●つ● 宇圖 紀神代 宇頭 万六ノ九 五丁 延喜式に都を用ひたるハ不正。

うづひこ 人名 つ● ひ○ 宇豆比古 古中

孝 神武紀に于砮。
元 故とあるハ不正。

うづなひ 諾 つ● 宇豆奈比 万十

孝元 神武紀ニ于督毗。故とあるハ不正。

うづなひ 諸 つ● 宇豆奈比 万十

八ノ廿丁。続日宣命。

うづしほ うづまく潮之 つ● 宇頭之保 万十五ノ十五丁

うづらとり 鶉 つ● と○ 宇豆良登理 古下 雄畧

うづま

さ 姓。又山城ノ地名。 つ● 烏豆麻佐 紀雄畧 姓氏録ニ都を用ひたるハ不正。

うづ

もる 埋 つ● 烏豆毋利 紀雄畧

うど 駿河ノ郡名 と● 有度ノ郡 万廿ノ廿丁

ウナ **ウネ**

うなかみ 地名 か○ 宇奈加美〻 万十四ノ三丁 宇奈可美 五ノ十三丁

うなて 姓。又地名。 て○●難定 雲梯(ウナテ) 姓氏録 宇奈提 延喜式

う

なひ 津ノ国ノ地名 ひ○ 宇奈比 万九ノ卅五丁 十九ノ廿六丁

うなひがは 越中ニある

川ノ名　ひ○　か●　宇奈比河波　万十七ノ廿六丁

うなひ　地名　ひ○　宇奈比　万十四ノ八丁　但し海辺のひハ備を用ひて濁る例あり。

うなゐはなり　童女放髪　は○　童女(ウナヰ)波奈理　万十六ノ十六丁

うながけり　頸懸　か●　宇那賀氣理　古上　宇奈我既利　万十八ノ廿四丁

うながせる　上ノ条ニ同　か●　宇那賀世流　古上　汙奈餓勢屢　紀神代

うなげる　上ノ条ニ同　け●　宇奈雅流ゐま　万十六ノ廿七丁

うなかぶし　項傾　ふ●　宇那加夫斯　古上

うなはら　海原　は○　宇奈波良　万五ノ廿五丁。十四ノ廿五丁。廿ノ十九丁。十七丁。此言十五ノ巻ニあまた処にある。一処も濁るのかなを用ひず。必ス清べきを云なり。後世濁るハ誤之。

うねび　大和ノ地名　ひ●　宇泥備　古中神武　宇祢縻山　紀同　万葉七ノ巻ニ飛を用ひたるハ不正。

う

ねを　美濃ノ地名　を○　宇泥須　古中景行

ウハ

うはつくふ 上國 つく○ 羽播豆矩你 紀神代 化ノ豆゜を用ひたるハ不正。

うはき 草名 は○き● 宇波疑 万二ノ四 十二丁

うはなり 後妻

は○ 宇波那理 古中 神武 宇破奈利 紀 円

うはへなき 昨日あいそな

き へ○ 宇波弊毎 十キ 万四ノ廿六丁

うはふ 奪 集 は● 有婆比

ニ 万五ノ十九丁

ウヒ

ウヘ

ウホ

うひぢふ 神号 ひ○ ぢ● 宇比地迩ノ神 古上 紀ニ毗゜を用ひたるハ不正。

うへ 上 へ○ 宇閇 古上 島杯 紀明斉 古紀万葉ニ陪゜倍゜を用ひたるハ不正。

うへ 姓 へ○ 宇閇ノ直 紀天武

うべ 諾 へ● 宇倍 古中景行

宇毎 紀天武

うほな 蝦夷ノ地名 ほ○ 宇保那 紀斉明

ウマ

うまし 称美の詞 し○ 宇麻志 古上 于麻時于麻師 紀神代

うましまぢ 人名 ち● 宇摩志麻遅ノ命 古中神武 于魔詩莽耐 紀神武

うまひと 貴人 ひ○ 宇摩比等 于摩譬苔 紀神功 于磨辟等 紀仁徳 右 麻必等 万五ノ廿丁 なるハ誤レ。

うましもの 美味物 し○ なるべ。うしもず

ウマジモノとあるをひまぢへを。こハ志ノ誤ゐえ也。

うまさけ 三輪ノ枕詞 さ○ 宇磨佐開 紀崇

神

うまぐた 上総ノ郡名 く● た○ 宇麻具多 万十四ノ八丁 和名 抄に。望陀とある八。蓋誤なくづれなるなり。

うまかひ 人名 馬養 かひ○ 于麻柯 比紀雄畧 田比 ゐし田比を用ひたるハ不正。

うまぐたさ 馬の手綱 まとぐるこ た● さ○

ウマ 馬太伎ゆきて 万十九ノ十一丁 こハ師の説に。蓋誤みて清なると。下上にあときかへとるなりといへれ。トヨ

馬太伎（ウマ）ゆきて 万十九ノ十一丁
こハ師の説に。言從ふて清ぬ。下上
にあさかへさるなりといへれさトヨ
クジヒネるど此徐に。十四ノ壹十九丁
に。コマハ多具トモ。とあるに六日ぐ。

うませこし　ませかきを越ゆるこ　せ

二○ 宇麻勢胡之 万十四ノ卄丁

ウミ

ウム

うみが　陸に對テ海を云フ　か● 宇美賀 古中 景行

うみさち　海幸　さ○

海佐知古 上

うみつち　海路　ち○
かなるハなりれども。助詞の下ハ。濁ム例なり。

うむぎひめ　神号　き● ひ○
蛤（ウムギ）貝比賣古 上
カキガ゜ヒ ワスレガ゜ヒるどのガ゜も

ほまかれを唆〳〵てほりつキ゜ハカ゜ピ゜の略りとるこ。

うむがし　心に叶ひて愛く思ふこ　か● 牟賀思

久 万十八ノ卄四丁 宇武何志伎 宇牟賀斯美 宇牟我自弥 続日 宣命

ウラ

○

うらけ 酒ヲ酔之 け● 宇羅宜 古中 應神

于羅虞波斯 紀 雄畧 宇良具波之 万十七ノ 廿七丁

● 宇良賀礼 万十四ノ 十二丁

之 万十四ノ五ノ四丁・九五丁・十 廿四丁

丁

非之 万十七ノ 廿七丁 宇良故非之 日四十四丁 日ひしヽ。宇良呉非するの とある。これハ体言ならへれど。

はるをさる すまるめ。

紀仁徳

宇良敝 万十四ノ七丁 十五ノ九五丁

うらぐはし 美ル詞 く●

うらがれ 心離 か

うらがなし 心悲 か● 宇良我奈

うらぶれ 心佗 ふ● 宇良夫礼 万五ノ六五

うらこひし 心戀 こ○ 宇良胡本斯けむ 古下 清寧 宇良胡

うらぐはのさ 桒ノ木の末枝之 く● 于羅愚破能紀

うらば 末葉 は● 宇良婆 古下 雄畧

うらへ 占合 へ○

うらを 浦洲 を○ 宇良須 古上

ウル

ウレ

ウエ

うるけぢ 鉤ノ名 け○ち●、于樓該賦 紀神代

は○ 宇流波志 古中應神 于漏破試 紀景行

● 宇礼之備 万十八ノ十一丁

于黎多棄 紀神武、万八ノ卅丁、

く○ 宇礼豆久 古中應神

有羅叙（ウレムソ） 万十一ノ十二丁 宇礼牟曽 三ノ卅丁

● 宇恵具佐 古中景行

氣 万十四ノ廿二丁 但し某竹といふ云。多くなる例に。

うるはし 麗 美

うれしび 悦 ひ

うれたし 慨 た○ 宇礼多久 古上

うれづく 慨く。づくハ、かけづくなどいふづくに、つ●

うれむそ 師曰イカンソニ同 そ○ ●難定

うゑぐさ 植ハかろし只草に く

うゑたけ 植ハかろし竹に た○ 宇恵多

○延部 エリ エシ エタ

えくるしゑ 苦 く○ 愛倶流之衛 紀天智
えしぬ 吉野 し
○曳之弩 紀天智 余思努 万十八ノ九三丁
えぬ 枝 ぬ● 延陀 古下
雄略紀円. 延太 万十八ノ九八丁 紀ニ多を用ひたるハ不正.

エチ エツ エナ エヒ エミ

えち 近江ノ郡名 ち○ 朴市 紀天武 依智 続日七. 和名抄.
えつゝ 蘆葦 つ
○哀都利 紀顕宗
えなつひめ 人名 ひ○ 荏名津比賣 古中
角化
えひめ 伊豫ノ國ノ又ノ名 ひ○ 愛比賣 古上
えみし 蝦夷 し○
愛瀰詩 紀神武

○淤部 オカ オキ

おかみ 龍神 か○ 淤加美 古上 於箇美 紀神代 於可美 万二ノ十二丁

おかみ 龍神 か○ 淤加美 古上 於箇美 紀神代 於可美 万二ノ十二丁

おきつしまひめ 神号 ひ○ 奥津島比賣ノ命 古上

おきつひめ 神号 ひ○ 奥津比賣ノ命 古上

おきざかる 神号 さ● 淤伎奢加畱神 古上

おきめ 人名 き○ 淤岐米 古下顕宗紀円.

おきまろ 人名 き○ 意吉麻呂 万二ノ六二丁

おき 國名 き○ 隠伎 古上

おきながかは 近江ニ在ル川ノ名 上ノか● 下ノか○ 於吉奈我河波 万六ノ四十九丁 後し河を用ひたるハ不正.

おきそやま 信濃ノ地名 そ○ 奥十山 万十三ノ七丁 奥礒山 十°礒°ハ清ム誤ゝ.

おきそのかぜ 息嘯風 きそ○ 於伎蘇乃可是 万五ノ六丁

おきつとり 鴨の枕詞 つ○ 淤岐都登理 古上 飫企都鄧利 紀神代 もとほるハ非ゝ.

おきな 老翁 き○

○於伎奈、於吉奈 万十八ノ廿五丁

おきなち

起立 き○ ゐ○ ●

難定 於已陀智 紀顕宗

陀ハ怎るれども一処ありてハ定めうし。去紀ハ凡て陀の用ひさま不正

おこそ

おなき

神のいつく頭の字をオギロとよみて注をするり。但しオギロといふハ奥の意と聞ゆる。ギを怎るハ疑ある也。

き● 於藝呂奈伎 万六ノ廿五丁

オリ

オケ

オコ

おくる

送 く○ 於久理 万十五ノ五丁

おくる

後 く○ 於久礼 万十七ノ四十三丁

おく

置 く○ 於枳て 万十八ノ廿八丁

おくつ

ミ

墓 つ○ 於久都奇 万十八ノ廿二丁

おくか

奥処 か○ 意久迦 万五ノ廿八丁 於久可 十七ノ八丁

おけつひ

人名 けつひ○ 意祁都比賣命 古中 開化

おこと

遣 こ○ 於許世年 万十八ノ廿四丁 於已勢 十九ノ十二丁

おこなひ

行 二○ 於虚奈比 紀 允恭

巳勢十九ノ十二丁

おこなひ

行 こ○ 於虚奈比 紀允恭

オサ

オシ

おさか

大和ノ地名 さ○ 意佐加 古中神武紀円。

おさへ

押 へ○

於佐倍 万六ノ十八丁 倍。を用ひたるハ不正。呉ス清音なるべき処なり。

おしかひゑ

人名 ひ

○ 忍鹿(オシカ)比賣ノ命 古中孝安

おしは

人名 は○ 押磐(オシハノミコ)皇子 紀雄略

おしころわけ

隠伎ノ國ノ又ノ名 こ○ 忍許呂別 古上

おしぬみ

大和ノ地名 し○ 於尸農瀰 紀顕宗

おしびらき

押開 ひ● 於

おし

辞穽羅箇祢 紀崇神 餒斯毗羅枳 紀継体 万葉五ノ毘ヌ比。を用ひたるハ不正。

おしひ

押拂 は● 於茲婆良比 紀顕宗

おしてる

難波ノ枕詞 て

○ 淤志弖流 古下仁徳紀円。於之弖流 万六ノ六四丁

オス

オソ

おそ 壓 そ○ 飫蔫 紀神武 意須比 古上 於須譬 紀仁徳

おそひ 所曰襲覆の約りよるこ そひ○

おそひおしへ 東語ニ磯辺ヲ云 ひへ○

於須比 万十四ノ九丁 於思瞰 同五丁

おそぶる 戸を押て開くを云 ふ●

淤曾夫良比 古上 於曾夫流 万十四ノ九丁

おそき 襲 衣 そき○

於曾伎 万十四ノ十七丁

おそはや 遲速 そは○ 於曾波夜 万十四ノ四丁

オタ

オチ

オト

おだひ 穏 だ● 意太比 続日宣命 こハ外にかなきなけれど姑くあぐ。又多を用ひるハ不正。

おち 落 ち○ 淤知 古上 於智 紀安康

おとひめ 人名 ひ○

弟比賣 古中開化

おとたちばなひめ 人名 ひ○ 弟橘比賣

古中景行

おと 弟 と○ 乙登 古上・紀神代・

おとひ 尼 弟 と○

古中景行

おを

弟 を○ 乙登 古上紀神代

おをひ

弟 尼 を○

弟日(オトヒ)をとめ 万一ノ六六丁

おをくに

山城ノ郡名 を○ 弟國(オトクニ) 古中垂仁

おをなひ

音 をひ○ 淤等娜比 紀神代

おをかし

音高

ゑ● 於登太可思 万十四ノ卅三丁

おをやまつみ

神号 を● 淤

滕山津見ノ神 古

オノ

オヒ

おのごろしま

島ノ名 こ●し○ 淤能碁呂志摩 古下仁徳

お

ひゑてる

生立 ゑ● 淤斐陀氐流 古下仁徳、雄略、

[illegible]

てふゑとはるべし。[illegible]

おひゑちさかえ

生立栄 ゑさ○ 於

非多知左加延 万十八ノ廿七丁

おひそや

負箭 そ○ 於比曽箭 万六ノ

卅四丁

おびおぶ 帯 ひふ● 於寐紀武 烈 於魔細屢さゝら

みゝ 於寐継体 於婆勢流 万十七ノ九丁。九ノ六丁。 比を用ひたるハ正しからず。

オフ

オヘ

おふ 負 ふ○ 名ニ於幣流 万十七ノ四十四丁 於返流やまずみなる 五ノ九

四丁 ゆきとめ 於保世 九ノ五十丁 於婆武 於婆せる などあるハ不正。

おふ 逐 ふ

○ 於敷 万十七ノ四十五丁

おふせ 仰 せ○ 於不世 万九ノ卅一丁

おへる 覆 へ◎ あまそゝぎ淤幣理 古下 雄略

オホ

おほなむち 神号 な○ ち● 意冨斗能地 神古上

おほね

のべ 神号 な○ へ● 大斗乃辨 神古上 凡て。とふをハの下ハ。大なる。居。などなるなり。

まりつゞく言なハなる例あり。然るゆゑハ知られねど。いはゆる一格なるべし。又例をいはゞ。おほのがハとこのべ。うちのべがハのべ。やまのべなどなり。委し

よりつゞく言にはにごる例あり。然るゆゑは考へ得ねど、さる一格なる例なるべし。其例をいはゞ、あまのがは、とこのべ、さきちのべ、がはのべ、やまのべなどなり。委しくは其の条にみえたり。

おほやびこ
神号　び●　大屋毘古ノ神　古上

おほ

げつひめ
神号　げ●ひ○　大宜都比賣　古上
氣を用ひたるは不正。

おほやまとひこおほやまとひめ
神号　やひ○　大戸惑子ノ神大戸惑女ノ神　訓注　訓惑云麻刀比　古上

おほなむち
神号　ぢ
●　大穴牟遲　古上　大汝ナムヂ　万六ノ十三丁
出紀。万葉。姓氏録。延喜式。などに智知を用ひられども、猶古事記によりつ。凡て某△ヂといふ。ぢなる例也。又大名持とかける処も出紀万葉にみえ、かくいふときはモチのヂを濁△べきにや。某モチといふ皆濁△例也。久比奢母智。宇氣母知。珥倍毛葱。などあまたあり。

おほとのぬし
神号　じ○
於朋望能農之神　紀崇

おほくぬし
神号　く○　淤冨久

おほいちひめ
神号　ひ○　大市比賣　古上
尒奴斯　古上

おほ

おなかみ 神号 を● 大科度美ノ神 古上 おほへひめ 神号、ひ
○へ○●難」知 大戸比賣ノ神 古上 おほかむづみ 桃ヲ云 か
○つ● 意冨加牟豆美ノ命 古上 凡て某ツミとよぶツ。多く清△ 例ハ」和知都美岐比佐都美
「和多都民」「許都美」など清てよめるよ。かく豆を用ひたるハらふう。旧事記ニハ意冨加牟都美とあり。これをさかしらにいふかえず。かくあるなどを
うつせしるべし。されど改むべきをあらぬど。今ハ旧まゝよりつ。 おほくめ 人名 く○ 於保
久米 万九ノ五 十丁 おほやまとくにあれひめ 人名 ひ○ 意冨
夜麻登玖迹阿礼比賣ノ命 古中 孝霊 おほやまとねこひこくに
くる 孝元天皇 く○ 大倭根子日子國玖流ノ命 古中 孝元 おほな
び 人名 ひ● 意冨那毗 古中 孝元 おほびこ 人名 ひ● 大毗古
古ノ命 古中 孝元 おほたらしひこおしろわけ 景行天皇 し○ 大
帯日子淤斯呂和氣ノ天皇 古中 景行 おほくゑむさか 人名 ゑ○

帯日子淤斯呂和氣ノ天皇 古中 景行

おほたむさか 人名 た○ 大多牟坂ノ王 古中 開化

おほあまひめ 人名 ひ○ 意冨阿麻比賣 古中 崇神

おほたゝねこ 人名 た皆○ 意冨多多泥古 古中 崇神

おほたむわけ 人名 た○ 意冨多牟和氣 古中 景行

おほほど 人名 ほ○ ど● 意冨冨杼ノ王 古中 應神

おほぎたしひめ 人名 さ● ひ○ 意冨藝多志比賣 古下 用明

おほさゝき 仁徳天皇 上ノさ○ 下ノさ● 意冨佐邪岐 古下 仁徳

おほけ 仁賢天皇 け○ 意冨祁ノ王 古下 安康

おほはこ 人名 は● 於譜磐故 紀欽明

おほち 人名 ち○● 「難定 邑治(オホダ) 紀持統 続日六・邑知(オホチ) 万十七ノ十四丁

かくあれど・一くさハ定めがたし・用ひさるかたの法に従りてよむべきなり・

おほつち 人名 ち○ 大津(オホツ)

父チ 紀欽明

おほく 備前ノ郡名、人名、 く○ 大伯オホク 紀斉明、二ノ十三丁、万 邑久オホク 八、続日 和名抄、神名帳、

おほしかふち 姓 ち○ 大河内オホシカフチ 紀宣化 ほる八 従之、

おほ 姓、又出雲ノ郡名、 ほ○ 意冨臣 古中 神武 於保おう 万十八ノ五 十三丁

おほきみ 大王 き○ 於朋耆弥 於朋枳弥 紀推古 於保吉美 万六ノ 十七丁 はる八 挑之、

おほぬてひこ 小豆嶋ノ又ノ名 ひ○ 大野手比賣 古上

おほぬまるわけ 大嶋ノ又ノ名 ぬ○ 大多麻流別 古上

おほさぬ 豊後ノ郡名 さ○ ぬ● 於保岐陀 紀景行

おほさか 地名 さ○ 淤冨佐迦 古下 履中 飫明佐箇 紀 日

おほさき 大キ戸ノ ゝきゝ き○ 於朋耆妬 紀崇神

おほやけ 大和ノ地名 け○ 於褒野該 紀武烈

おほあらきのもり 大和ノ地名 き○ 大荒城オホアラキ 万十一ノ四 十八丁

おほきやま 筑紫ノ地名 き○ 大城山 万八ノ大 四丁

おほぬくみ 大工

おほきやま 筑紫ノ地名 き○ 大城山 万八ノ大四丁

おほくみ 大工 み○ 意冨多久美 古下清寧

おほち 大道 ち○ あふみの於保知 万十五ノ卅一丁

おほぶね 大船 ふ● 於保夫祢 万十五ノ九丁・十二丁・

おほかはら 大河原 か○ 意冨迦波良 古中景行

おほぬち 大翅 ぬ○●難定 飫褒陀撥 紀武烈

おほはかり 翅名 は○か● 大葉刈。刈此ヲ云フ二我里一ト 紀神代 但し古事記ニ大量とあれど。オホハカ゜リとカ゜を清ミてよめるも づきの量をハかり・とハよ〳〵し

おほね 大根 ほ○ 淤冨泥 古下仁徳 於朋泥 紀円

おほゐぐさ 莞 く● 於保爲具左 万十四ノ十二丁

おほをれる 葛などの延之 を○ 於保登礼流 万十六ノ廿四丁

おほゝし 欝悒 ほ○ 於保保思久 万十一ノ九丁・五ノ廿六丁・十四ノ廿五丁・ 但し六ノ巻ニハ煩゜をも用ひためり・

引しろでいふこでまでのでもほれぞこ。提ハ出紀にてハ佗書。万葉よてハ俣書を用ひられざれるし。

おもがはり

面變 か

おほろか

おろかハ之 ほ○ 飫明呂伽紀仁徳 於保呂可 万十九ノ十四丁

万葉十八ノ九丁又。於呂可ともあり。又六ノ五十丁又煩をとも用ひたり。

おほろ

朧 ほ○●難レ知

縦字足あらず。

おほつかなし

物の明ラカならぬ之 ほ○ 於保東无（ツカナシ） 万八ノ六丁。

十ノ九丁。ほるハ非之

おほふ

覆 ほ○ 於保比 万十七ノ十三丁

おぼち

鉤 名 ほ●ち○ 淤煩鉤 古上 紀又大鉤とあるハ非之。

おぼる

溺 ほ● オボルのオボはオボチのオボまひとしければなるべし。

オ三

オモ

おみづぬ

神号 つ● 淤美豆奴 神古上

おもだる

神号 た● 淤母陀琉 神古上 某どるとよはる非之。

おもて

面 て○●難レ定

意母提 紀皇極。万五ノ九丁。 万葉九ノ六十六丁又。阿我母弖ともあり。又オモとぞうりもの。テはフリのまあるゝぞなるべきなり。

引しろでれぞとでをぞのでもほれをこ。提ハ出汜りてハ乃意の葉りてハ住喜ろ用ひられざれくるし。

おもがはり 面變 か ● 於毛我波利 万十八ノ卅一丁 加を用ひるハ不正。

おもひかね 神号 か ○ 思加尼ノ神 古上

おもひかね 思不堪 か ○ 於母比可祢 万十四ノ六二丁

おもひ 思ひ ○ 於母比[意母布] 古中 應神 意母閉 景行 於望臂 紀仁徳 於謀賦 武烈 意母比 万五ノ六八丁 土紀万葉ニ婆倍を用ひるハ不正。

おもほしき 思ほ ○ 於母保之伎 万十七ノ六三丁

おもひがなし 思悲 か ● ～於母比我奈之 万十五ノ六三丁

おもひぐるし 思苦 く ● 於毛比具流之 万十四ノ六三丁

おもひこひ 思戀 こ ○ 於母比孤悲 万十七ノ四十六丁

おもひそめ 思始 そ ○ 於母比曽米 万十八ノ十四丁

おもかゝみ 面形 か ○ 於毛可多 万十四ノ六八丁

おもぢろ

し 心ヲかゝる 哀りの身 志○ 於毋之樓枳 紀斉明 於毛思路伎 万十四ノ十九丁

おもぶき 趣 ふ● 於毛夫氣 続日宣命

オヤ オイ オヨ オラ オロ

おなやし 同し● 於野兒 紀天智 於夜自 万十七ノ卅一丁 於奈自伎 十八ノ

十六丁

おいづく 老着 ○つ● 於伊豆久 万十九ノ卅丁

およづれ 妖言 つ● 於余頭礼 万三ノ四十五丁 於餘豆礼 十七ノ卅一丁

おしび 吽 ひ● 於良妣 万九ノ卅六丁

おろげ 人名 け● 於閭礙 紀敏達

おろし 下し○ 於呂之 万十五ノ七丁

泊洦舍藏

泊酒舍蔵